

# 第1章 計画策定の沿革と目的

## 第1節 計画策定の沿革

水子貝塚は、縄文時代前期に最高位に達したといわれる縄文海進の時代に、内陸部に形成された代表的な貝塚であり、当時の集落の規模形態を推測しうる遺跡として学術上価値が高く、また遺跡の遺存状況も良好であることから昭和44年（1969）9月に国史跡に指定されました。

富士見市では、水子貝塚を保存し、後世に継承するとともにまちづくりに活かすため、指定の翌年度から土地の公有地化を開始し、昭和54年（1979）に保存管理計画を、昭和59年（1984）に保存整備基本計画を策定しました。

平成3年（1991）からは3カ年計画で、国庫補助事業「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場事業）」の採択を受けて環境整備工事を実施し、平成6年（1994）6月に「縄文ふれあい広場 水子貝塚公園」として供用を開始しました。

平成10年（1998）には史跡隣接地に考古館を移転し、史跡と自然、資料館が一体となった野外博物館的な施設として管理運営を行っています。

現在、水子貝塚公園・資料館は、歴史学習と憩いの場として多くの来園者があります。一方、供用を開始してから28年が経過し、園路や復元住居の修理工事などを随時行いながら施設の維持管理につとめていますが、経年の変化により施設の劣化、樹木の高木化、展示内容の固定化などの課題も浮上しています。

そこで、水子貝塚を適切な状態で保存管理し、後世に残していくとともに観光資源や地域資源として積極的に活用するため、将来の再整備を見据えた保存活用計画を新たに策定することとしました。

## 第2節 計画策定の目的

少子高齢化・都市化などを背景とする地域の文化財の滅失や散逸を防止し、地域社会総がかりで継承に取り組み、観光やまちづくりなどに活用するなど、計画的な保存・活用を促進するために、平成31年4月に文化財保護法が改正されました。これにより、都道府県は文化財の保存・活用に関する総合的な施策の大綱を策定でき、市町村は地域内の文化財の保存・活用に関する総合的な計画と国指定重要文化財等の個別の保存・活用計画を作成し、国の認定を申請することができるようになりました。

本計画は、水子貝塚の本質的価値を改めて認識し、公園として供用を開始してから28年が経過した現状の課題を整理した上で、より良好な状態で未来へ継承するための保存、整備、管理、そして周辺環境や文化遺産も含んだ地域資源、観光資源として活用をすすめるための方向性と具体的な取組を定めることを目的とします。

### 第3節 委員会の設置

計画策定にあたり、水子貝塚の保存、整備及び活用に係る審議会として、「富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会条例」を令和4年4月に施行しました。本委員会は、本計画のみならず今後予定している整備基本計画や整備基本設計をはじめ、教育委員会の諮問に応じて各計画等を審議する組織として再整備の完了まで設置します。

本委員会は、考古学などの学識経験者と関係市民によって構成し、指導・助言者として文化庁文化財第二課並びに埼玉県教育委員会も同席しました。委員名簿及び会議記録は以下のとおりです。

#### ■富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

(任期 令和4年7月1日～令和6年6月30日)

氏名	所属等
阿部 芳郎	明治大学文学部教授
岩村 沢也	淑徳大学経営学部教授
佐々木 由香	金沢大学古代文明・文化資源学研究所特任准教授
大畠 仁	富士見市立水谷小学校長
佐々木 眞理子	富士見市文化財審議会議長
井上 麻美子	水子貝塚資料館市民学芸員
鈴木 光男	地域団体「ふれあいTAP」代表
古澤 立巳	公募市民

#### ■オブザーバー（指導・助言）

氏名	所属等
浅野 啓介	文化庁文化財第二課
尾崎 沙羅	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課

#### ■会議記録

期日	議事内容
令和4年9月7日	史跡水子貝塚保存活用計画（案）について
令和4年11月9日	史跡水子貝塚保存活用計画（案）について
令和5年 月 日	史跡水子貝塚保存活用計画（案）について

また、富士見市第6次基本構想などの行政計画との整合や関係部局との連絡・調整のために、「史跡水子貝塚保存整備庁内推進委員会」を設置しました。



図1 第1回史跡水子貝塚保存整備委員会



図2 現地視察

## 第4節 市の計画との関係

本市では、水子貝塚を重要な歴史・文化資産として保存・継承し、地域資源として活用を推進するために、各種計画に位置付けています。

上位計画である「富士見市第6次基本構想 第1期基本計画」や「第3次富士見市教育振興基本計画」、関連計画である「第3次富士見市生涯学習推進基本計画」「富士見市都市計画マスタープラン」などとの整合を図りながら計画を進めます。

### ①富士見市第6次基本構想 第1期基本計画（令和3年度～令和7年度）

#### 分野9 文化芸術・文化財

基本政策 14 地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる

#### 14-3 文化財の活用

市民が郷土の歴史、文化をまちの魅力と感じられるように、文化財の活用事業を充実します。

【主な取組】歴史公園・資料館施設の活用

### ②第2期富士見市キラリと輝く創生総合戦略（令和3年度～令和7年度）

基本目標B 「暮らし」にやさしい富士見市～選ばれるまちとなるために～

基本施策2 地域の魅力を感じ暮らせるまち

#### 取組① 公園・湧水の活用

公園や湧水を本市の貴重な地域資源と捉え、その活用を進め、市の魅力向上を目指します。

【具体的な取組事業】水子貝塚公園や難波田城公園等、特色ある公園の活用

### ③第3次富士見市教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）

基本方針Ⅱ 学びあう地域社会をめざす教育の推進

基本目標4 郷土遺産の継承

○文化財の保存と活用

○水子貝塚資料館・難波田城資料館の充実

### ④第3次富士見市生涯学習推進基本計画（令和3年度～令和7年度）

基本目標② 地域資源や地域の人材を活かした生涯学習をすすめます

ア 地域資源を活かした生涯学習の提供

水子貝塚資料館・難波田城資料館で実施する各種事業の充実

### ⑤第2次富士見市文化芸術振興基本計画（平成26年度～令和5年度）

基本目標1 「育む」 感性や創造性を高め、心豊かなひとや豊かな地域を育むまちづくりをすすめます。

施策の柱4 地域の文化資源の活用と継承

基本目標2 「繋ぐ」 仲間づくりをすすめ、やりがいや生きがいを創るまちづくりをすすめます。

施策の柱1 公民館や交流センター、資料館、図書館などを活かした地域での文化芸術活動の充実

⑥富士見市都市計画マスタープラン（令和3年度～令和23年度）

第1章 全体構想

第1節 まちづくりの理念と都市計画の目標

3 目指すべき都市像

自然・交流拠点

- ・難波田城公園、水子貝塚公園など市民や周辺都市の住民が自然や歴史などをはじめとした地域資源とふれあい、交流を促進する拠点を形成します。

第2節 分野別方針

4 水と緑の方針

①水と緑の軸の形成

- ・水子貝塚公園、難波田城公園、新河岸川、榛名神社などを鎌倉道や花の道などでつなぎ、自然資源や歴史資源を巡る散策路として維持・活用します。

第2章 地域別構想

5 水谷地域

④水と緑の方針

- ・水子貝塚公園など既存公園の適切な維持・管理を行います。
- ・水子貝塚公園などの歴史性を有する公園の活用を進めます。

⑦富士見市シティプロモーション戦略

基本政策 富士見市のファンが増え、賑わいが生まれる

基本施策 インナープロモーションにより、市民の愛着を醸成

1 市のイメージアップ

水子貝塚公園や難波田城公園、びん沼自然公園や湧水などの地域資源に加え、地域に埋もれている新たな資源の発掘と活用により、市のイメージアップを図ります。

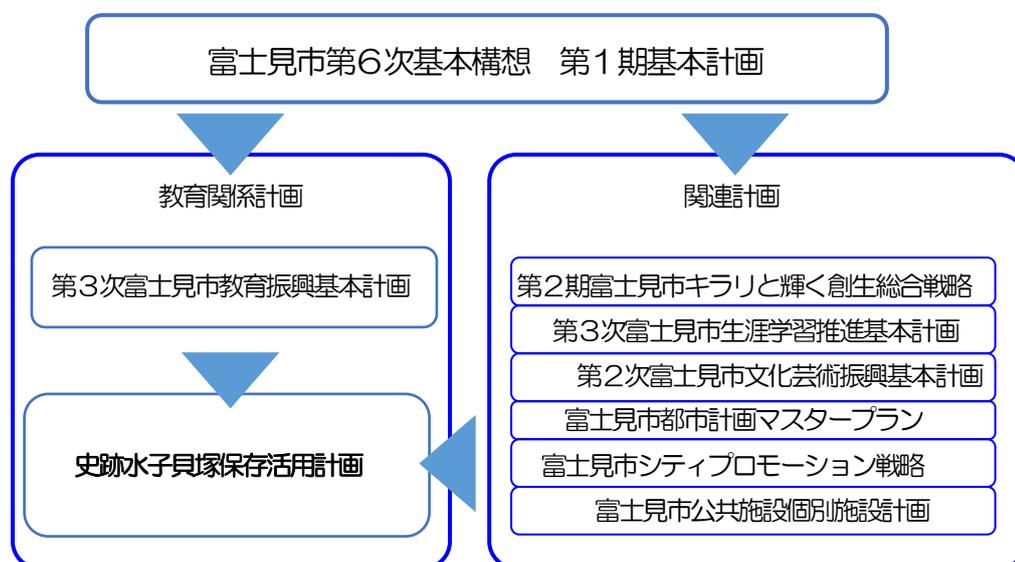


図3 富士見市の計画と関係性

## 第2章 史跡の環境

### 第1節 地理的環境

富士見市は埼玉県南部に位置し、規模は東西約7.0 km、南北6.8 km、面積は約19.77 k m<sup>2</sup>で、東は荒川を境にしてさいたま市と、南は柳瀬川を境にして志木市と、北はふじみ野市、川越市と、西は三芳町と接します。

富士見市の地形は、東部が標高5 m前後の荒川低地、西部が標高20 m前後の武蔵野台地からなります。低地部には市内のほぼ中央を縦断するように新河岸川が流れ、その流域には自然堤防が発達しています。台地縁辺部は、新河岸川に向かう富士見江川、権平川、砂川堀といった小河川や湧水によって大小の谷がいくつも刻まれる複雑な地形をしています。

水子貝塚は、富士見市の南部、武蔵野台地水子支台に位置しています。



図4 関東地方の地形と富士見市の位置



## 第2節 歴史的環境

### 1 富士見市の歴史

#### ・原始・古代

市内には多くの遺跡が存在しますが、そのほとんどは日当たりが良く、水の得やすい台地縁辺部に連なるように分布しています。

市内最古の遺跡としては谷津遺跡があり、旧石器時代の約 35,000 年前の石器が出土しています。

縄文時代の遺跡は、水子貝塚をはじめ、八ヶ上遺跡（草創期）、打越遺跡（早期～後期）、羽沢遺跡（中期）、松ノ木遺跡（中期）、栗谷ツ遺跡（早～中期）など市内各所に多数存在します。羽沢遺跡出土の獣面装飾付土器を含む 10 点の土器は、埼玉県指定有形文化財となっています。

弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡は、南通遺跡や北通遺跡をはじめ柳瀬川流域の低地に面した台地上に集中して認められるようになります。台地上に集落を営み、低地で水稻耕作を行っていたようです。また、低地の自然堤防上にも集落が営まれるようになり、この頃から低地部の開発が本格化したようです。北通遺跡の方形周溝墓から出土した鉄剣、ガラス玉、土器が市指定有形文化財となっています。

古墳時代中・後期になると遺跡は少なくなり、水谷地域に小規模な集落が存在するのみとなります。古墳は、渡戸地区にかつて貝塚山古墳があり明治時代に調査され、鉄刀が出土しています。また、水谷地区の水川前遺跡と観音前遺跡からは、円墳の周溝が発見されています。

奈良時代に律令国家が成立すると、当市の地域は武蔵国入間郡に属しました。奈良・平安時代の遺跡は、市内各所に点在していますが、水谷地域の東台遺跡以外には大規模な集落は存在しません。

#### ・中世

遺跡では、埼玉県指定旧跡難波田氏館跡（難波田城跡）が良く知られており、現在は難波田城公園として整備されています。中世の代表的な資料である板碑は、勝瀬・護国寺や南畑新田・慈光院跡の市指定有形文化財の大型板碑をはじめ市内各所に存在しており、市内の古寺、古社もこの頃の創建とされています。また、通称「鎌倉道」といわれる所沢方面とさいたま市方面を結ぶ古道が柳瀬川流域の崖線に残っています。

史料では、応永 22 年（1415）の「市場祭文」に水子の地名をみることができ、永禄 2 年（1559）に後北条氏が作成した「小田原衆所領役帳」には、大窪、勝瀬、鶴間、難波田、水子といった現在も残る市内の地名が記録されています。

#### ・近世

寛永 17 年（1640）の川越東照宮の再建資材の運搬をきっかけに新河岸川の舟運が開始され、市内にも 6 カ所の河岸場が設置されました。それによって、江戸と川越を結ぶ江戸道のほかに周辺の村々と河岸場を東西に結ぶ河岸道も整備されました。

当時の市域は、台地部の鶴馬村、勝瀬村、水子村、針ヶ谷村、低地部の大久保村、上南畑村、下南畑村、南畑新田にわかれていました。江戸時代の地誌「新編武蔵風土記稿」には、各村の戸数は鶴馬村 280 戸、勝瀬村 88 戸、水子村 59 戸、針ヶ谷村 30 戸、

大久保村 140 戸、上南畑村 150 戸、下南畑村 200 戸、南畑新田 59 戸と記されています。

#### ・近代から現代

明治 22 年 (1889)、町村制の施行により町村合併が進められました。鶴馬村と勝瀬村が合併し鶴瀬村に、大久保村、上南畑村、下南畑村、南畑新田が合併し南畑村に、水子村と針ヶ谷村が合併し水谷村になりました。当時の各村の規模は、鶴瀬村が 678.8 町、403 戸、2,459 人、水谷村が 432 町、315 戸、1,843 人、南畑村が 685.9 町、541 戸、3,371 人、でした。

大正 3 年 (1914)、東上鉄道の池袋・川越間が開通し、鶴瀬駅が開設されました。以後、鉄道が主要輸送手段として発展し、新河岸川の舟運は衰退することになりました。

昭和 31 年 (1956) に 3 村が合併し、富士見村となりました。翌年には日本住宅公団鶴瀬第 1 団地への入居が始まり、宅地開発が本格化しました。昭和 32 年に約 10,000 人だった人口も昭和 46 年 (1971) には約 54,000 人に達し、昭和 39 年 (1964) の町制施行を経て、昭和 47 年 (1972) には富士見市が誕生しました。

昭和 52 年 (1977) にはみずほ台駅が、平成 5 年 (1993) にはふじみ野駅が開設されました。同時に駅周辺の大規模な土地区画整備事業も実施され、都市的な街並みへと姿をかえました。現在の市の人口は、約 113,000 人を数えるに至っています。

## 2 縄文海進時の環境

荒川低地は標高 4～6 m の沖積地ですが、約 20,000 年前の最終氷期の頃は荒川と利根川を合わせた古期利根川が流れており、その谷底面は現地表から約 40m 下だったと推定されています。氷期の終焉による海面上昇により、この溪谷に海水が侵入し「古入間湾」となりました。最奥部は川越市、上尾市周辺にまで達しました。これがいわゆる「縄文海進」で、約 8,000 年前に海水準の上昇がゆるやかになると、古期利根川の堆積作用で水深が浅くなることで干潟が発達し、台地から注ぐ小河川や湧水により汽水域を形成しました。

富士見市周辺に海が存在し貝塚が残される縄文時代早期の終末から前期後半 (約 7,500 年前～約 6,000 年前) の遺跡のあり方から、海進時の環境の変遷を辿ってみます。埼玉県内にはこの頃の貝塚が約 100 カ所確認されていますが、そのうち 14 カ所が富士見市内に存在します。

縄文時代は、縄文土器の形や模様の変化から草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の大きく 6 期に区分されています。時間的・空間的にまとまりがある特徴的な縄文土器を「型式」として分類しています。型式名称は、その土器が発掘された遺跡名をとって付けられます。型式を時系列に沿って並べたものを編年といい、実年代がよくわからない縄文時代では、遺跡の時期の決定などに使用されています。

前期の編年は、古い方から花積下層式、関山式、黒浜式、諸磯式、十三菩提式に区分されています。

#### ・縄文時代早期終末 (約 7,500 年前)

縄文時代早期終末の遺跡として、打越遺跡、山室遺跡、谷津遺跡、宮廻遺跡、水子貝塚に隣接する氷川前遺跡があります。

打越遺跡では、竪穴住居跡が 58 軒発掘されており、このうち 1 軒は貝塚を伴ってい





- ふじみ野市**
- 1 川崎遺跡
  - 2 上福岡貝塚
  - 3 長宮遺跡
  - 4 鷺森遺跡
- 富士見市**
- 5 宮廻遺跡
  - 6 貝塚山遺跡
  - 7 山室遺跡
  - 8 平塚遺跡
  - 9 殿山遺跡
  - 10 黒貝戸遺跡
  - 11 宮脇遺跡
  - 12 谷津遺跡
  - 13 御庵遺跡
  - 14 山崎遺跡
  - 15 打越遺跡
  - 16 松山遺跡
  - 17 八ヶ上遺跡
  - 18 水子貝塚・氷川前遺跡
  - 19 栗谷ツ遺跡
  - 20 北通遺跡
  - 21 南通遺跡
- 志木市**
- 22 城山遺跡
  - 23 新邸遺跡
  - 24 西原大塚遺跡

年代	遺跡名 編年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		川崎	上福岡	長宮	鷺森	宮廻	貝塚山	山室	平塚	殿山	黒貝戸	宮脇	谷津
7500年前	早期末					○		●					●
7000年前	花積下層式期	○					●						
6500年前	関山式期	○	●	○					○	●			
6300年前	黒浜式期	●	●			○				●	●	●	○
6000年前	諸磯式期	○			○	○							

遺跡名 編年	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	御庵	山崎	打越	松山	八ヶ上	水子	栗谷ツ	北通	南通	城山	新邸	西原
早期末			●			○						
花積下層式期			●									
関山式期	●		●	●				●	●			
黒浜式期	○		●	●	●	●	●					○
諸磯式期		○				○			○	●	●	

●貝塚あり ○貝塚なし ※水子貝塚には隣接する氷川前遺跡を含む

図8 富士見市周辺の縄文時代早期終末から前期後半の遺跡の分布



図9 打越式土器（富士見市指定有形文化財）

・縄文時代前期初頭花積下層式期（約7,000年前）

花積下層式期の住居跡が確認されている遺跡はまばらです。富士見市では、打越遺跡で41軒発掘されており、うち3軒が貝塚を伴っていました。ただし、この時期の貝塚は少量で、主体となるヤマトシジミも2cm程度と小型です。その他に貝塚山遺跡で5軒の住居跡が確認されています。近隣では、ふじみ野市川崎遺跡、新座市池田遺跡、和光市白子宿上遺跡・市場峡遺跡などがありますが、いずれも1～3軒程度と小さな集落です。



図10 花積下層式期の遺跡の分布



図11 打越遺跡の花積下層式期の竪穴住居と貝塚





・縄文時代前期後半諸磯式期（約 5,800 年前）

遺跡数が減少し、竪穴住居跡が 20 軒を超える遺跡はなくなります。

宮廻遺跡からはこれまでの調査で 12 軒の竪穴住居跡が見つっています。宮廻遺跡の北側に位置する鷺森遺跡でも、15 軒の竪穴住居跡が調査されています。

水子貝塚に隣接する氷川前遺跡では、4 軒の竪穴住居跡が見つっています。水子貝塚でも 6 軒見つっており、位置関係から同一集落と考えられます。

市内の当該期の遺跡からは貝塚はまったくなくなります。志木市の城山遺跡や新邸遺跡では貝塚が認められることから、その辺りまで海退していたと考えられます。



図 18 諸磯式期の遺跡の分布

・貝塚の貝

富士見市内の貝塚を構成する貝は、95%以上が汽水域に生息するヤマトシジミです。次いでマガキとハマグリが多く、オオノガイ、アサリ、シオフキ、ハイガイ、アカニシ、サルボウなどの貝もありますが希少です。奥東京湾側に位置する同時期の黒浜貝塚 6 号住居跡の貝塚は、ハイガイが 85%を占めており、それにマガキやハマグリ、マテガイなどが混じっていました。古入間湾と奥東京湾の海辺環境の違いがあらわれています。

ヤマトシジミは、貝塚が形成されはじめる早期終末から前期花積下層式期は殻高 19 mm前後と小型で、生育環境がまだ十分でなかったと推定されます。関山式期には殻高 25~30mmと最も大型化し、黒浜式期は 23~25mmとやや小型化する傾向にあります。



図 19 貝塚を構成する貝

### 3 水子貝塚周辺の文化財等

水子貝塚から柳瀬川沿いの台地上は、古来より人々の生活の舞台となり、それを象徴する文化財が残されています。

#### ①打越遺跡

旧石器、弥生、古墳、奈良、室町・戦国の各時代の遺跡で、富士見市を代表する遺跡です。

#### ②神井戸

かつては豊富な水量を誇った湧水のひとつで、生活用水として利用されていました。傍らには地域の人々によって祀られた江嶋神社と弁財天があります。

#### ③氷川神社

水子上組の氏神で、高さ1mほどの小さな富士塚があります。

#### ④甲子大黒天

天和元年（1681）銘の日本最古の子待塔です。

#### ⑤大應寺

水光山不動院と号する真言宗智山派の寺院で、建立年代は不明ですが中世までさかのぼると考えられています。山門は立派な構えの鐘楼門で、歴史を感じさせます。

#### ⑥水宮神社

江戸時代は、魔訶山般若院という修験寺院でした。神社の前にあるのは、狛犬ならぬ狛蛙で、境内のあちこちで蛙が迎えてくれます。六蛙堂には江戸時代初期に製作された役行者像が安置されています（富士見市指定有形文化財）。

#### ⑦水子貝塚資料館

市内の遺跡から出土した約500点の埋蔵文化財を展示しています。埼玉県指定有形文化財の羽沢遺跡出土縄文土器をはじめ、富士見市指定有形文化財の打越式土器、北通遺跡方形周溝墓出土土器など、市の歴史を知る上で貴重な資料が展示されています。

#### ⑧新河岸川コスモス街道

地元市民の皆さんが新河岸川の堤防上にコスモスの種を蒔き大切に育てています。秋風に揺れる色とりどりのコスモスが道行く人の心を和ませてくれます。



図20 神井戸



図21 甲子大黒天



図22 大應寺鐘楼門



図23 水宮神社役行者像



図24 羽沢遺跡出土獣面裝飾付土器

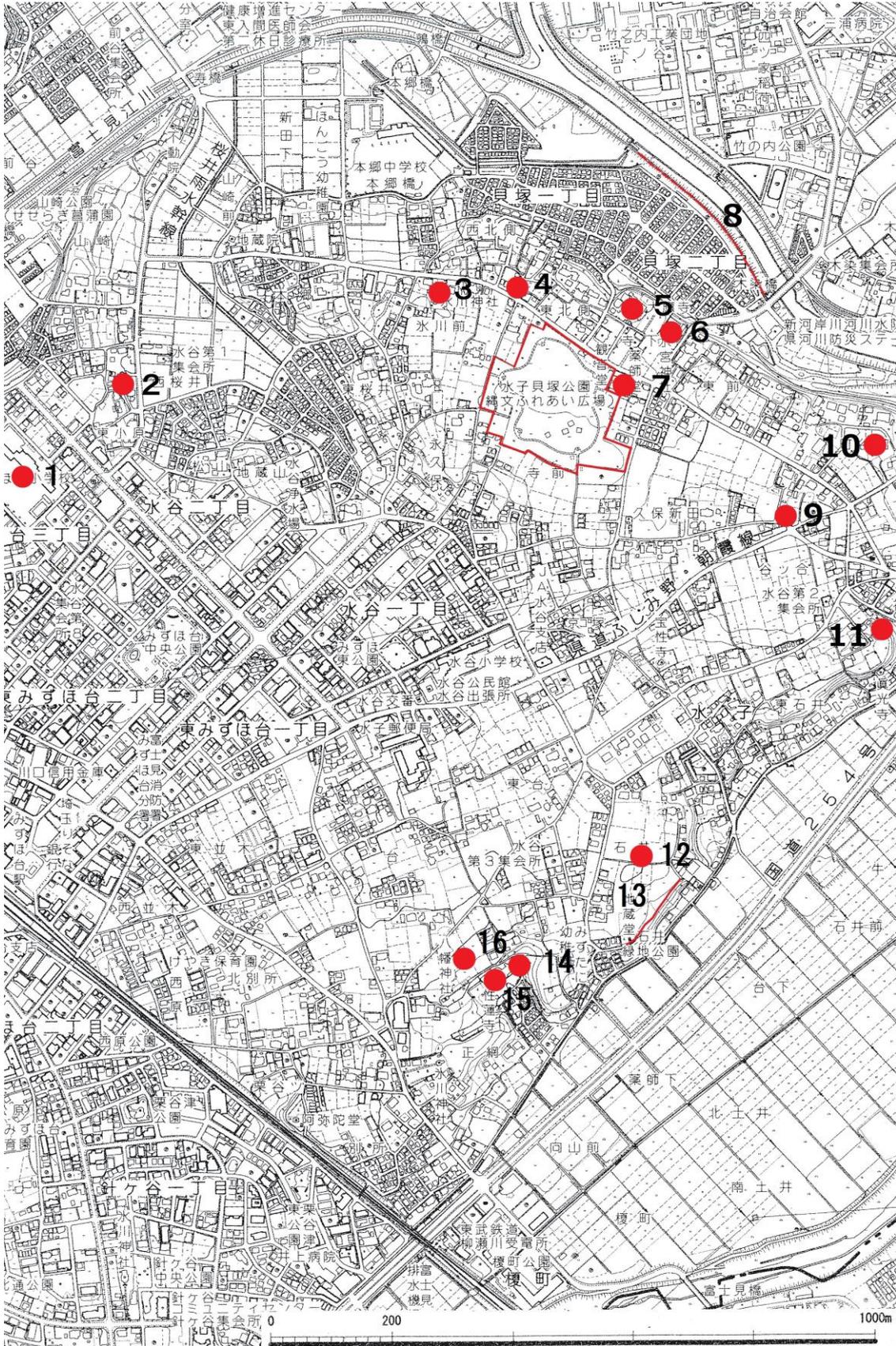


図 25 水子貝塚周辺の文化財等

### ⑨天保の道しるべ

川越方面と志木方面を結ぶ江戸道と所沢方面と新河岸川にあった山下河岸を結ぶ河岸道の交差点にある道しるべです。天保 15 年（1844）に山下河岸の廻船問屋山田屋佐平治によって建てられました。四面には、山下河岸三丁、ひき又十五丁、所さわ三里、川こへ三里半と刻まれています。

### ⑩観音前遺跡

遺跡全体の 2 割ほどの発掘調査しか行っていませんが、弥生時代後期の竪穴住居跡が約 30 軒確認されています。弥生時代後期の遺跡は、南通遺跡や北通遺跡がありますが、それらに匹敵する規模の集落となると予想されます。また、古墳時代後期の竪穴住居跡も 10 軒以上発掘されており、当該期の集落としては市内最大規模となります。

### ⑪御嶽塚

北東向きの斜面を登山道に見立てた塚で、斜面の中腹をテラス状に整地して火山岩を敷き詰めています。明治 28 年（1895）銘の御嶽山大神の石碑が建てられています。

### ⑫東台遺跡

これまでの発掘調査で平安時代の竪穴住居跡が約 90 軒見つかっています。当該期の遺跡としては市内最大です。

### ⑬鎌倉道

柳瀬川に面した台地の崖線を通る古道で、一部が残っています。鎌倉から上越方面に向かう鎌倉街道上道と奥州方面に向かう鎌倉街道中道を結ぶ脇道だったといわれています。

### ⑭お井戸

台地下から流れ出る湧水で、傍らには弁財天が祀られています。

### ⑮性蓮寺

日蓮宗の寺院で、戦国時代にこの地を治めていた上田氏の供養塔があります。

### ⑯正網遺跡

市内唯一の縄文時代晩期の竪穴住居跡が見つかっている遺跡です。



図 26 天保の道しるべ



図 27 御嶽塚



図 28 鎌倉道



図 29 お井戸



図 30 正網遺跡の縄文晩期の住居跡

### 第3節 都市的環境

水子貝塚の周辺は、都市計画によって市街化区域、第1種低層住居専用地域に指定されています。水子貝塚公園が開園した頃は、周囲は畑地でしたが、近年宅地開発が進み景観が大きく変化してきています。この傾向は、水谷地域の南部に顕著で、若い世代を中心に人口も増加しています。こうした中で、水子貝塚公園は市街化区域にある身近な公園・緑地として貴重な存在となっています。

周辺の道路は、東には国道254号（富士見川越道路）、南には国道254・463号（浦和所沢バイパス）が通っており、両道から自動車ですぐとアクセスしやすい環境にあります。国道254号（富士見川越道路）は東京外環自動車道方面への伸長工事が現在進んでいます。また、公園の北は都市計画道路のみずほ台駅東通線も計画されています。これらの道路が開通することにより、利便性が増し遠方からの来園者の増加も期待できます。

水子貝塚公園は、みずほ台駅から約1.5kmの距離にあり、徒歩でも約15分で到着することができます。路線バスは、みずほ台駅からは市内循環バスが1時間に1便、志木駅から東武バスが1時間に4便が運行されています。バスを利用される方には志木駅からの乗車を薦めています。



図31 みずほ台駅東口から水子貝塚方面をのぞむ（中央の道がみずほ台駅東通線、その先に見える森が水子貝塚公園）

## ●水谷地域 まちづくり方針図

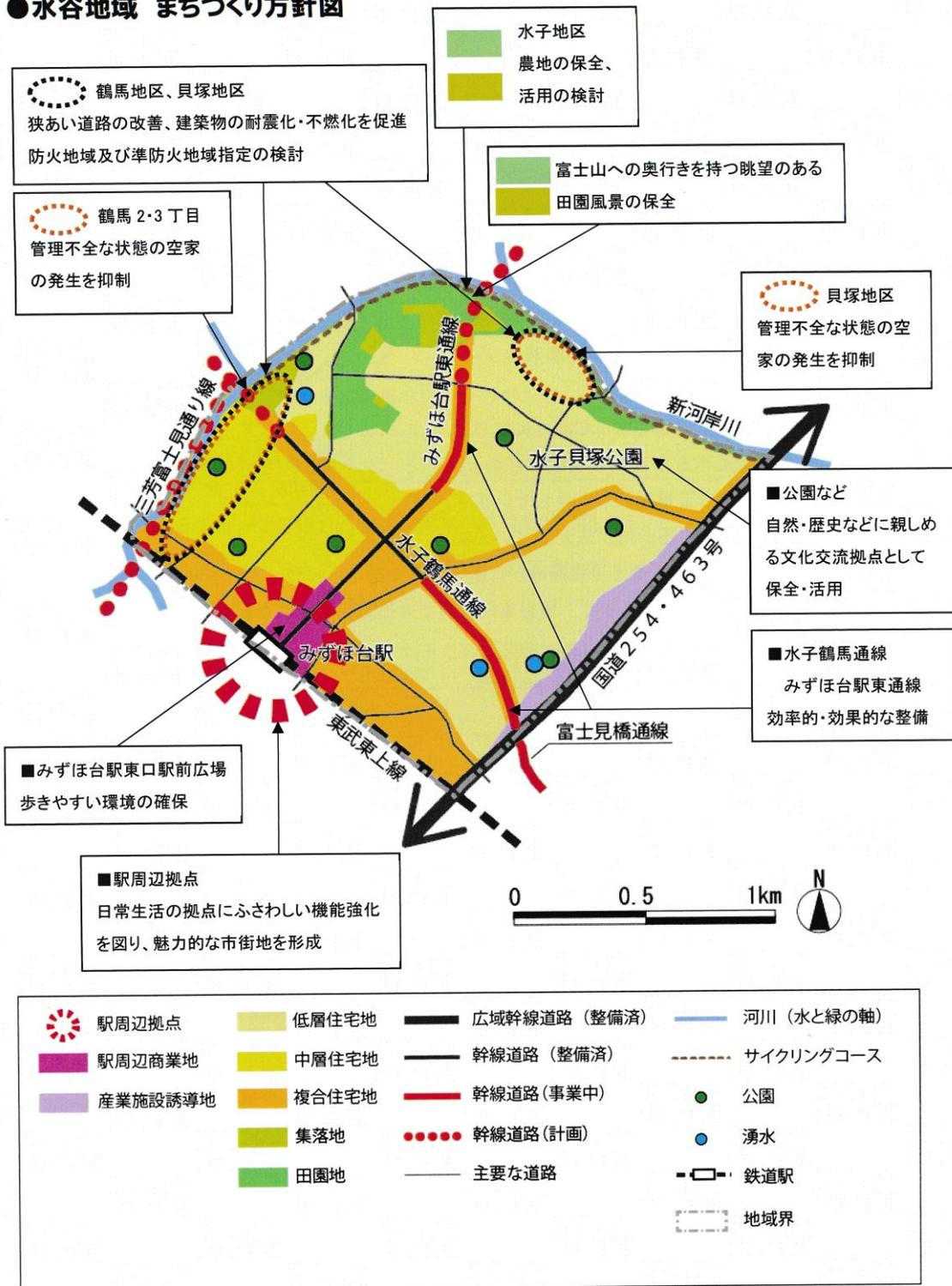


図 32 水谷地域のまちづくり方針図 (富士見市都市計画マスタープランから転載)

## 第3章 史跡の概要

### 第1節 史跡の立地と環境

富士見市の地形は、西半分が標高 20m前後の武蔵野台地と東半分が標高 6 m前後の荒川低地からなっています。原始・古代の頃は、台地には森が広がり、動物や木の実などの食料、建築材や薪などの資源が豊富だったと推定されています。また、台地下には多くの湧水や河川が流れ、生活に欠かせない水の入手も容易でした。こうした自然環境を背景に、富士見市内には台地の縁に沿って、旧石器時代から多くの遺跡が残されています。

さらに、今から約 8,000 年前から 6,000 年前には地球の温暖化により、荒川低地に沿って海水が内陸部まで入り込み、「古入間湾」を形成しました。従来からの資源に加え海産資源を獲得可能となった当地域には、多くの人々が集い、集落を営みました。人々は、海で採取した魚やシジミ・カキなどの貝を食料とし、残った骨や貝殻を廃屋となった竪穴住居にまとめて捨てました。積み重なった貝殻は、主成分であるカルシウムによって腐食しないため、数千年の時を経てもそのままの状態です。「貝塚」として残りました。富士見市内には、16 遺跡で貝塚が発見されており、その中でもっとも大規模なものが水子貝塚です。

水子貝塚は、東武東上線みずほ台駅から北東に直線距離で約 1km、新河岸川を見下ろす武蔵野台地上に位置しています。今から約 6,000 年前の縄文時代前期の遺跡で、明治時代には存在が確認されています。昭和 13 年 (1938) から数回の発掘調査が実施され、約 50 カ所の小さな貝塚が直径 160mの環状に分布する遺跡であることが明らかとなりました。昭和 44 年 (1969) 年に「縄文時代前期の多くの小貝塚からなる大規模な貝塚群のひとつであるとともに、小貝塚の分布から貝塚形成当時の集落の規模形態を推測しうる遺跡として学術上価値が高く、また遺跡の遺存状態も良好である。このため、遺跡の全域を指定するものである」として国史跡に指定されました。

### 第2節 史跡指定に至る調査

#### 1 明治・大正期の発見

水子貝塚は、明治 27 年 (1894) 10 月に、この地を訪れた阿部正功<sup>あべまさこと</sup>によって発見され、『東京人類学会雑誌』第 10 巻第 106 号に貝塚山遺跡とともに紹介されました。

阿部は、陸奥国棚倉藩最後の当主で、廃藩置県後に華族 (子爵) に列せられた人物です。幼い頃から学問好きで、遺物・遺跡に深い関心を持ち、明治 20 年代に主に東京・埼玉・神奈川の遺跡を踏査し、人類学会で発表しました。坪井正五郎や鳥居龍蔵等の当時の学会の人々とも交流し、自宅に収集資料を展示していました。

阿部の残した『入間郡志木町近傍搜索記』によると、阿部は 10 月 25 日に浦和駅から人力車で志木に至り、そこから歩いて水子まで来ると、大應寺前の畑に貝塚があること

を聞き、現地を訪れました。畑を歩き、100m四方以上に広がる貝塚の分布を確認しました。そして、農夫に試掘を依頼し、厚さ 30 cmほどの黒土の下に貝塚があり、貝はシジミ、ゴウラ（タニシ、カワニナ等の巻貝）、カキであったと記しています。

大正6年（1917）の『日本石器時代人民遺物発見地名表』には、貝塚山、勝瀬、水子・大應寺前貝畑、針ヶ谷、南畑の5カ所の富士見市内の遺跡・遺物が掲載されています。報告したのは川越地方の知識人であった<sup>あんべたつろう</sup>安倍立郎です。安倍は、郷土史家としての一面も有し入間郡内の考古資料や板碑などの資料を精力的に収集していました。

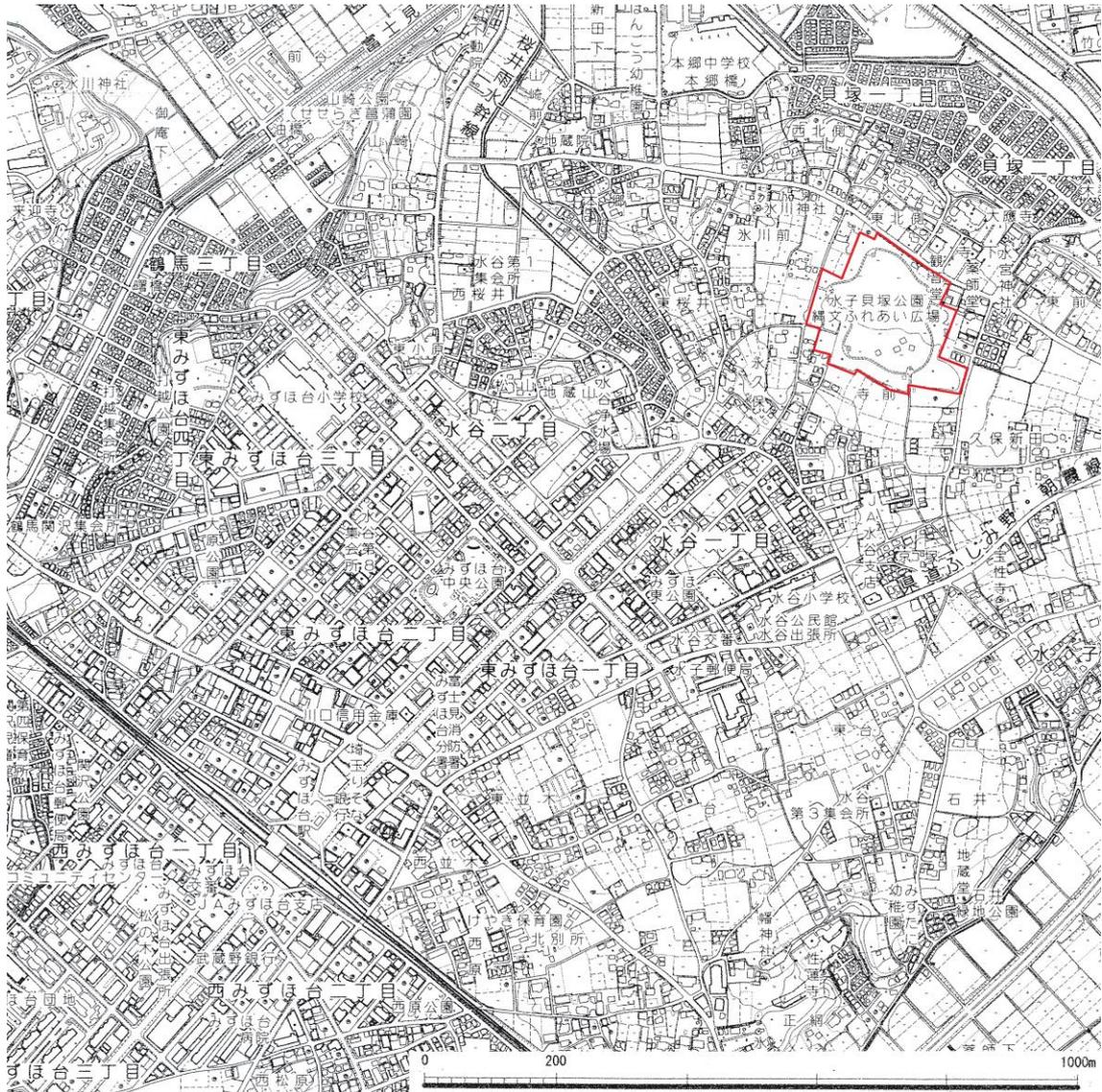


図33 史跡の位置



酒詰と和島は、昭和 14 年（1939）にも貝塚を伴う竪穴住居 1 跡軒を発掘しました（2次調査）。2次調査は、10月18日から31日に東京帝国大学人類学教室による発掘として行われました。調査した貝塚は「12号貝塚」とされた最大の地点貝塚で竪穴住居の外まで広がっていました。10月22日には、東京人類学会の水子貝塚見学遠足会が開催され、約60人の人類学会員やその家族が発掘に参加しました。

これらの調査によって、縄文時代前期の貝塚は埋まりかけた竪穴住居跡の窪地に遺棄されたものであることが確認されました。水子貝塚は、貝塚の分布により集落の全容を明らかにする見通しがたてられた遺跡として評価されています。

和島は、昭和 23 年（1948）に『原始聚落の構成』を発表し、縄文時代から古墳時代における集落の変遷を論じました。後に「和島集落論」と呼ばれるもので、縄文時代中期の尖石遺跡、姥山貝塚とともに、前期の水子貝塚を事例にあげ、中央に広場をもつ馬蹄形・環状集落の成立を前期としました。

酒詰は、一般向けの解説書『貝塚の話』や『考古学辞典』で水子貝塚の調査成果を紹介しています。

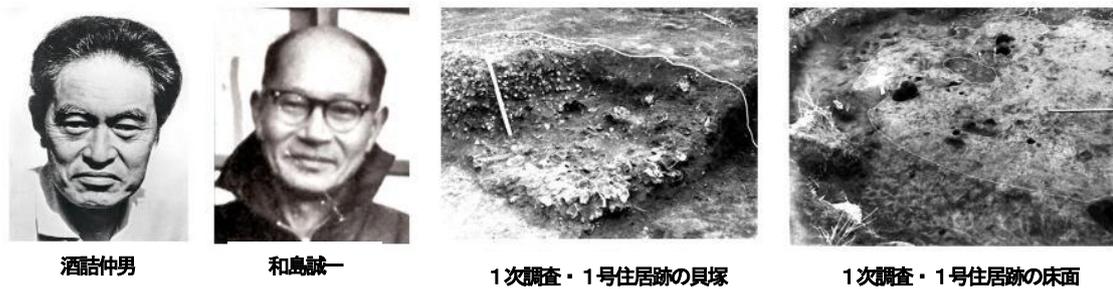
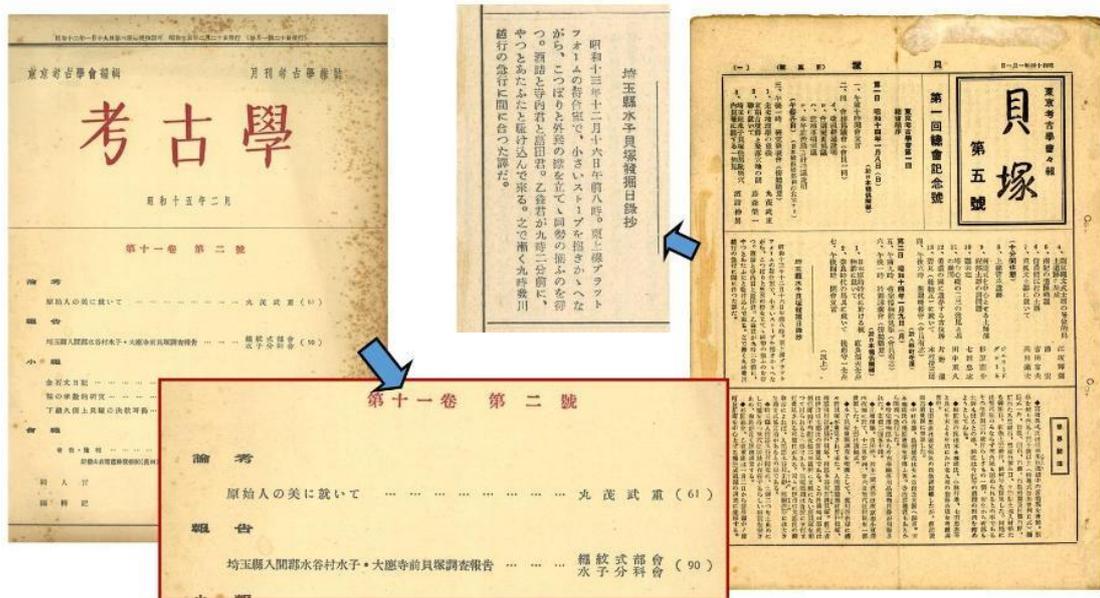


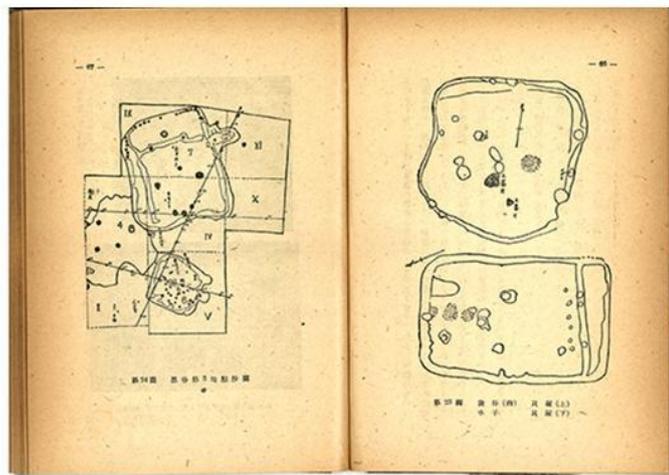
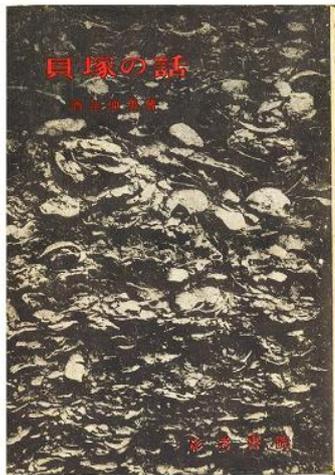
図 35 1次調査



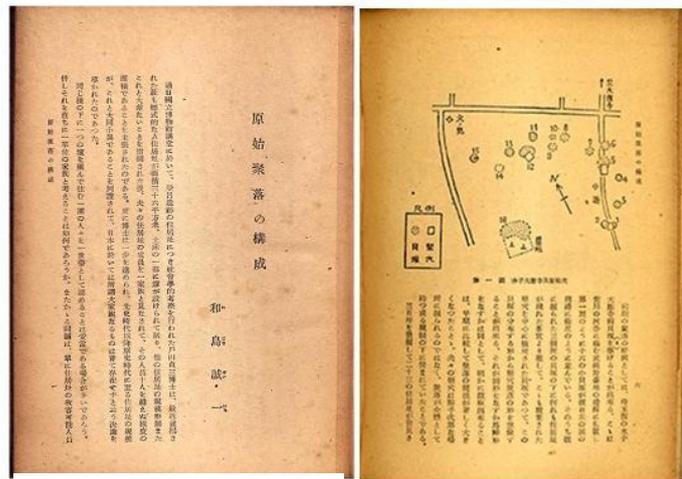
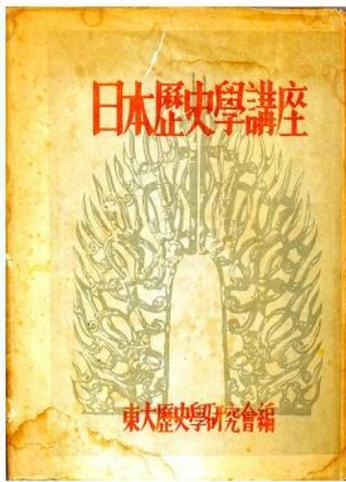
「考古学」第11卷第2号

「貝塚」第5号

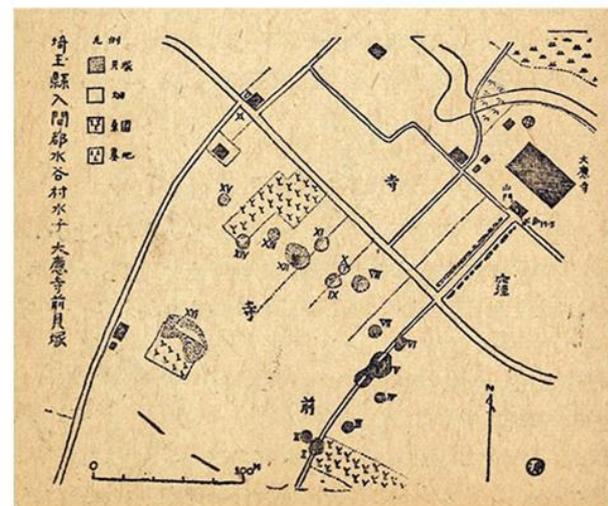
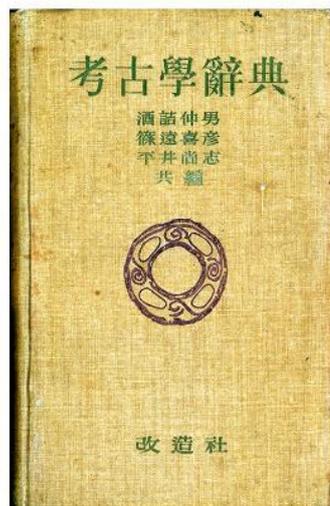
図 36 1次調査・2次調査の記録



酒詰仲男「貝塚の話」



和島誠一「原始聚落の構成」



酒詰仲男・篠達嘉彦・平井直志編「考古学辞典」

図 37 水子貝塚が紹介された図書

### 3 史跡指定前の発掘調査

昭和42年(1967)1月3日から11日に農地改良(天地返し)に伴う記録保存のための発掘調査が富士見町教育委員会により実施されました(3次調査)。

3次調査は、財団法人資源科学研究所に属していた和島を調査担当とし、貝塚を伴う黒浜式期の住居跡1軒、諸磯式期の住居跡1軒、中期住居跡1軒などが調査されました。また、ボーリングによる貝塚の分布調査も併せて実施され、環状に巡る50カ所の小貝塚が確認されました。

発掘調査終了後、富士見町では、水子貝塚の学術的価値を認識し、積極的に保存措置の手続きを進め、昭和42年(1967)5月に国史跡申請書を提出し、昭和44年(1969)9月9日に国史跡に指定されました(昭和44年9月9日付文部省告示第317号)。



3次調査の頃の大應寺付近

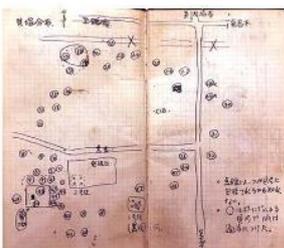
写真中央奥には大應寺の山門と本堂が見えます。

写真左の標柱は、富士見町の頃に設置されたもので、

「富士見村指定史跡大應寺貝塚」とあります。



3次調査・6号住居跡調査風景



貝塚の分布状況



6号住居跡出土土器

図38 3次調査

### 4 史跡指定後の発掘調査

昭和52年(1977)に「史跡水子貝塚保存管理計画」策定のための地表観察とボーリング調査を実施しました(4次調査)。これにより新たに16カ所の貝塚を確認し、昭和42年調査時のものと合せ計67カ所の貝塚が存在することが明らかとなりました。

昭和59年(1984)3月には「史跡水子貝塚保存整備基本計画」策定のための基礎資料の調査として、過去の調査地点を確認するためのトレンチ、貝塚を横断するトレンチなどを設定しました(5次調査)。横断トレンチでは縄文時代の小貝塚を伴う住居跡2軒、小貝塚を伴わない住居跡6軒(前期諸磯式期5軒、中期加曾利E式期1軒)、土坑・ピット10基、平安時代の住居跡・溝・土坑を確認しました。また、縄文時代の遺構配置については、おおむね最外郭に貝塚を伴う黒浜式期の住居跡があり、その内側に諸磯式期の住居跡があり、中心部は周囲より深く土坑が集中する様相が明らかとなりま

した。さらに、国家座標を基準として方眼を設け、1 m間隔のボーリングにより 58 カ所の小貝塚を確認しました。

平成2年(1990)からは3カ年計画で史跡整備に伴う基本資料の収集を目的とした発掘調査を実施しました(6次調査)。

平成2年12月から平成3年6月にかけて、史跡西部の遺構確認を行いました。縄文時代前期黒浜式期の住居跡2軒、古墳時代の住居跡等が確認されました。

平成3年(1991)9月から平成4年1月にかけては、ガイダンス施設(現水子貝塚展示館)建設予定地の発掘調査を実施しました。縄文時代前期黒浜式期の住居跡1軒、諸磯式期の住居跡5軒、中期加曾利E式期の住居跡2軒、平安時代の住居跡1軒などが発見されました。引き続き史跡南部の貝塚を伴う2軒の住居跡の調査に着手し、平成4年12月まで約1年間実施しました。保存状態良好な貝塚から多量の土器や石器などの遺物が出土したほか、住居跡内に埋葬された人と犬の骨も発見され、水子貝塚を理解する上で貴重な資料を得ることができ、その成果は史跡整備や展示に反映されました。また、屋外トイレ建設予定地からは、古墳時代後期の住居跡などが発見され、水子貝塚は縄文時代前期黒浜式期・諸磯式期、中期加曾利E式期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代の複合遺跡であることも明確となりました。

## 5 史跡整備に伴う発掘調査(6次調査)の成果

史跡整備に伴う基本資料の収集を目的として、15号、16号、17号の3軒の竪穴住居跡を発掘調査しました。15号住居跡と16号住居跡内は貝塚を伴っていました。また、3軒は重複関係にあり、17号→16号→15号の順で構築されていました。

### ①15号住居跡の調査概要

平面形は長方形で、長軸7.7m、短軸6.5m、深さ70cmを測ります。東側が出入口となり、西側の奥壁近くに炉が設置されています。4本支柱で、複数の柱穴、壁溝、炉から最低4回の改築が認められる拡張住居です。

貝塚は住居跡内にレンズ状に堆積し、最大厚は70cmです。ヤマトシジミを主体とし、マガキ層、ハマグリ層、オオタニシ層を間に挟んで、28段階の堆積過程が認められ、堆積所要時間は数年間と推定されています。また、貝層中には焚火の痕跡もありました。

住居南西部の貝塚下から頭部を出入口(東)方向にした屈葬状態の人骨が出土しました。人骨を葬るための掘り込みや人骨を覆うための貝層は認められませんでした。人骨は壮年女性で推定身長は146.3cmです。出土したときには左を向いていましたが、やや手足がずれており、元々は仰向け姿勢だった可能性があります。また、骨の鑑定所見から葬送からしばらくは遺体がむき出しの状態であったとの指摘もあります。

さらに、人骨の南側に位置する柱穴の中から犬骨が出土しました。柱穴を利用して埋葬されたものと考えられます。

多量の土器片が出土し、復元可能なものが10個体以上ありました。中には甲信地方のものも含まれていました。近年実施したレプリカ法による圧痕調査によりエゴマなどのシソ属の圧痕を有する土器が確認されました。動物遺体はイノシシ、シカ、タヌキなどの哺乳類、タンチョウなど鳥類、トビエイなどの魚類、炭化種実はおニグルミ、炭化材はクリ、おニグルミが出土しています。

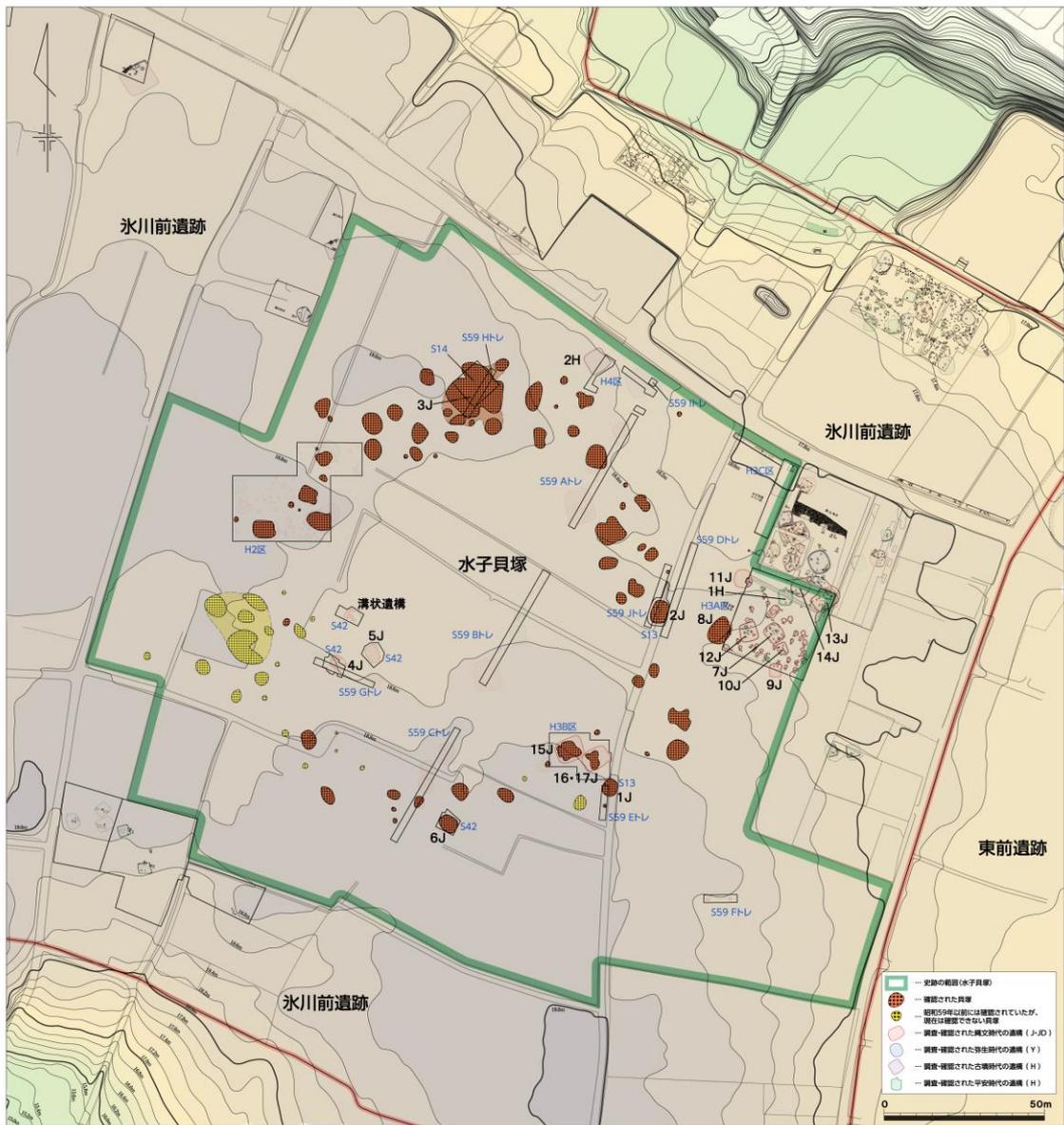


図 39 遺構配置図

番号	時代	時 期	貝塚	調査年	番号	時代	時 期	貝塚	調査年
1 J	縄文	前期・黒浜式	有	S13	11 J	縄文	中期・楯形式	無	H3
2 J	縄文	前期・黒浜式	有	S13	12 J	縄文	前期・諸磯式	無	H3
3 J	縄文	前期・黒浜式	有	S14	13 J	縄文	前期・諸磯式	無	H3
4 J	縄文	中期後半	無	S42	14 J	縄文	前期・諸磯式	無	H3
5 J	縄文	前期・諸磯式	無	S42	15 J	縄文	前期・黒浜式	有	H4
6 J	縄文	前期・黒浜式	有	S42	16 J	縄文	前期・黒浜式	有	H4
7 J	縄文	前期・諸磯式	無	H3	17 J	縄文	前期・黒浜式	無	H4
8 J	縄文	前期・黒浜式	有	H3	1 H	平安			H3
9 J	縄文	中期・楯形式	無	H3	2 H	古墳	後期		H4
10 J	縄文	前期	無	H3					

表 1 発掘調査住居跡一覧

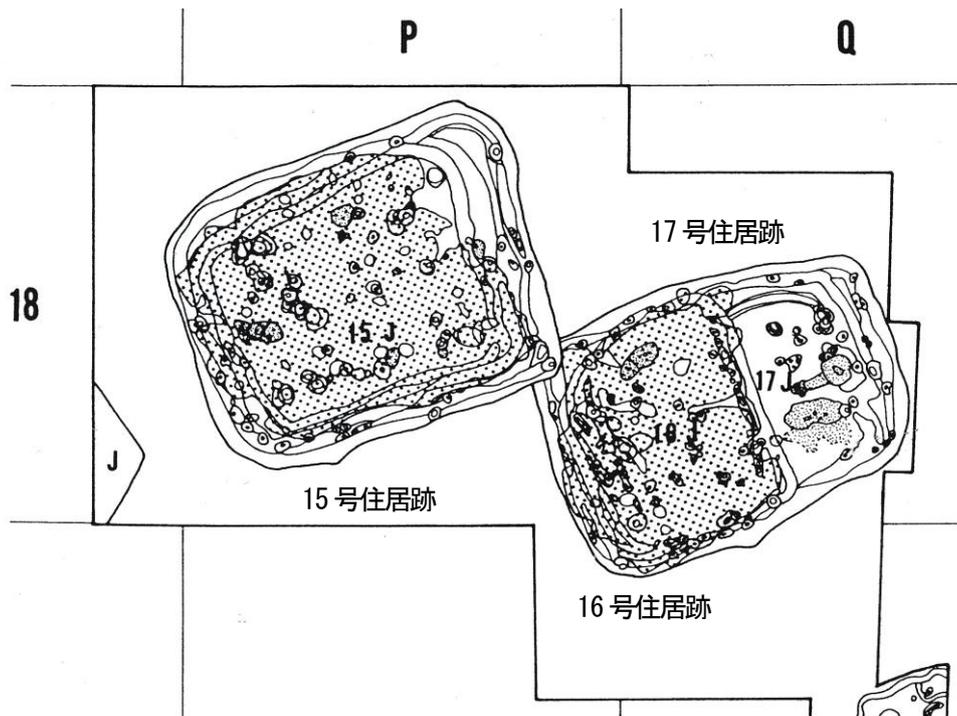


图40 15号·16号·17号住居跡配置图



图41 15号·16号·17号住居跡航空写真

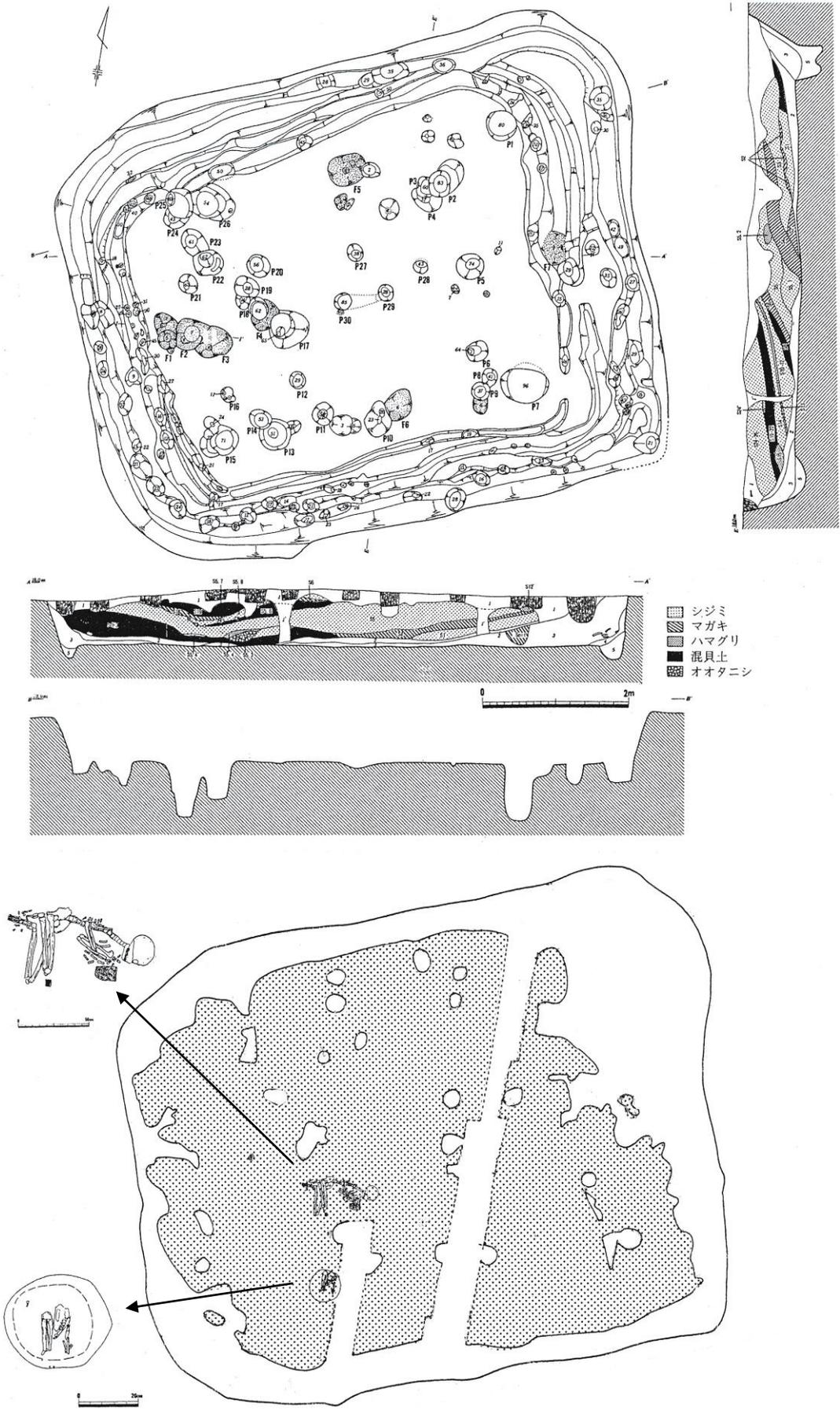


图 42 15号住居跡平面図・断面図(上)、貝塚範囲・人骨・犬骨出土状態(下) (1/80)



图 43 15号住居跡貝塚露出状態



图 44 15号住居跡貝塚掘り下し状態



图 45 15号住居跡人骨出土状態



图 46 15号住居跡犬骨出土状態



图 47 15号住居跡土器出土状態①



图 48 15号住居跡土器出土状態②



图 49 15号住居跡完掘状態



图 50 15号住居跡出土土器

②17号住居跡の調査概要

平面形は長方形で、長軸8.2m、短軸6.0m、深さ80cmを測ります。西側が出入口となり、東側の奥壁近くに炉が設置されています。6本支柱で、複数の柱穴、壁溝、炉から最低2回の改築が認められる拡張住居です。

③16号住居跡の調査概要

平面形は長方形で、長軸5.9m、短軸4.9m、深さ80cmを測ります。17号住居跡の東側1/3を埋めて東側の壁を新築し、北、西、南西側の壁を再利用して構築しています。南側が出入口となり、北側の奥壁近くに炉が設置されています。6本支柱で、複数の柱穴、壁溝、炉から最低1回の改築が認められます。

貝塚は住居跡内にレンズ状に堆積し、最大厚は80cmです。38段階の堆積過程が認められ、マガキ層→ヤマトシジミ層→ハマグリ層の堆積サイクルが10回繰り返されており、それにより堆積所要時間は10年以上と想定されています。

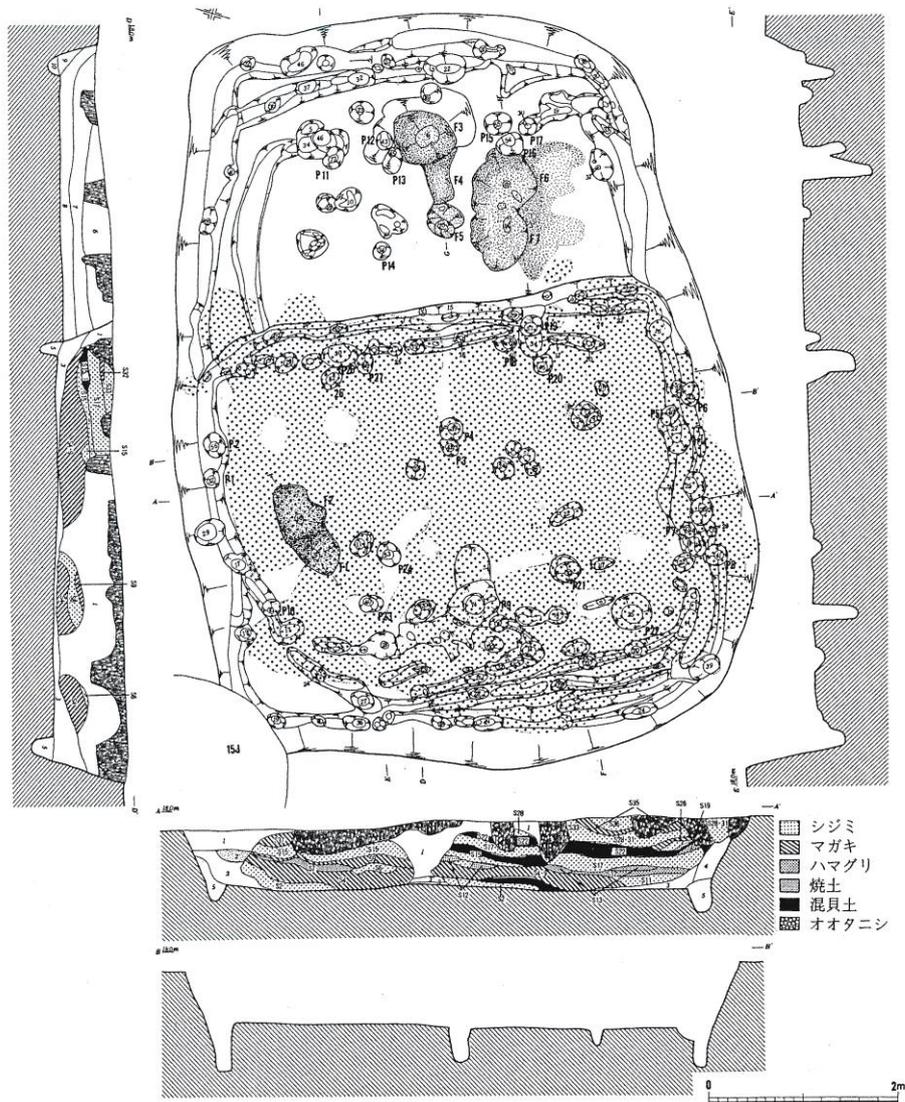


図51 16号・17号住居跡平面図・断面図 (1/80) ※網かけ部分=貝塚の範囲

多量の土器片が出土し、復元可能な個体が10個体以上ありました。また、15号住居跡と同様に甲信地方やエゴマなどの圧痕を有する土器が確認されました。動物遺体はイノシシ、シカなどの哺乳類、コイ、クロダイ、コチなどの魚類、アシハラガニ、炭化種実はオニグルミ、クヌギ、炭化材はクリ、コナラ、オニグルミなどが出土しています。



図52 16号住居跡貝塚露出状態



図53 16号・17号住居跡完掘状態



図54 16号・17号住居跡出土土器①



図55 16号・17号住居跡出土土器②



図56 15号住居跡出土石器



図57 15号・16号住居跡出土歯牙製・貝製装身具

#### ④自然科学的分析

##### 【貝塚の貝】

史跡整備に伴って発掘調査を実施した 15 号住居跡と 16 号住居跡には保存状態の良い貝塚が伴っていました。貝塚は汽水域（淡水と海水が混じる水域）に生息するヤマトシジミが 90%前後を占め、次いで泥底の干潟に生息するマガキ、砂底の干潟に生息するハマグリで認められています。

- ・汽水の貝…ヤマトシジミ
- ・淡水の貝…イシガイ、カワニナ、オオタニシなど
- ・泥底の干潟の貝…マガキ、オオノガイ、ハイガイ、オキシジミ、イタボガキなど
- ・砂底の干潟の貝…ハマグリ、シオフキ、アカニシ、サルボウ、アサリ、オキアサリ
- ・海の貝…カガミガイ、ツメタガイ、バイガイ、ナミマガシワ、イボキサゴなど

##### 【15 号住居跡の人骨】

15 号住居跡に埋葬された人骨は、壮年期の女性で身長は 146.3 cm でした。前歯が激しくすり減っており、皮なめしなどで酷使したためと考えられています。骨の中にわずかに残されているタンパク質を抽出し、炭素と窒素の重さを調べると、そのタンパク質の元となった食物を推定できます。その分析の結果、水産物（魚・貝など）より陸産物（獣・植物など）に由来するタンパク質の方が多く、特に獣に由来するタンパク質が多いと推定されました。

また、犬骨を同様に調べた結果、人間以上に水産物を食べていたことがわかりました。

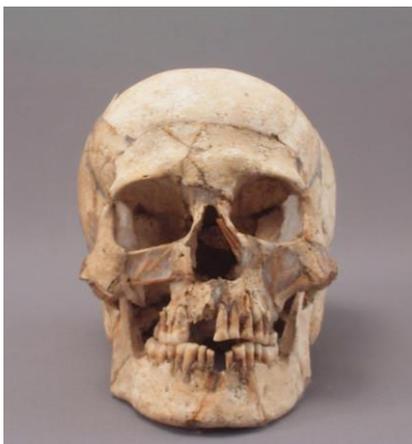


図 58 水子貝塚の人骨（頭骨）

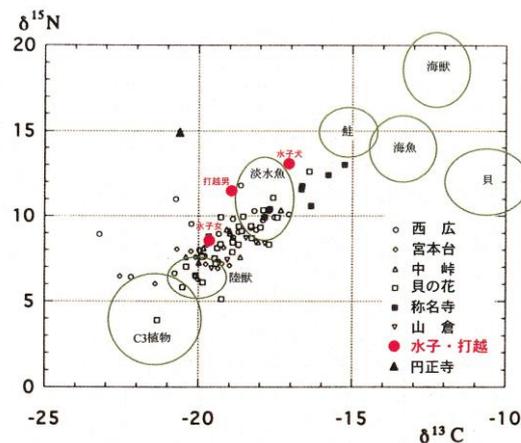


図 59 南関東地方の縄文貝塚出土人骨の炭素・窒素安定同位体

##### 【炭化種実と炭化材など】

炭化種実として、オニグルミ、クリ、クヌギなどがあります。オニグルミの殻は丈夫で腐りにくいため、多く見つかる傾向にあります。1点のみ見つかったクリの実は、大きさが 23mm で野生のクリとしては大きい方です。

炭化材は、クリが主体です。これは縄文時代の遺跡では一般的な傾向で、コナラやクヌギが多い弥生時代と対照的です。

炉跡や貝塚の中から見つかった灰に含まれるイネ科の植物のプラントオパール（植物の細胞組織に充填する非結晶珪酸体）を調べたところ、森林の下生えのクマザサ属型、明るいところを好むネザサ節型など、竹・笹類のプラントオパールが多く見つかりまし

た。また、屋根材に使われたと推定されるススキやチガヤなどのウシクサ族のプラントオパールも見つかっています。遺跡周辺には、ススキ原やネザサ節を主体としたササ原が存在していたと思われます。

住居跡	現場採取分(件数)					柱状試料浮遊分(点数)											
	オニグルミ	堅果	クスギ近似	不明果実	クリ	合計	オニグルミ	コナラ亜属	ブナ科	キハダ	シソ科	モモ	イネ	オオムギ?	コムギ近似	アフ近似	不明
15住	45	1				46	115				1		4	1	1		
16住	28	18	8	1	1	56	25	1	3	3		4	2	1	1	1	14
備考	クルミは残りやすい					穀類は上部集中(後世の混入)											

住居跡	クリ	オニグルミ	コナラ節	タケ亜科	エノキ属	ケヤキ	クスギ節	マツ属	その他	合計
15住	66	20		1		1			1	89
16住	73	10	5	4	2	1	1	1	3	100
備考	クリは腐りにくく鑑定しやすい									

表2 15号・16号住居跡出土の炭化種実(左)と炭化材(右)

【獣骨類】

- ・15号住居跡…魚類 トビエイ(2)、不明(9)  
鳥類 タンチョウ(1)、不明(6)  
哺乳類 タヌキ(1)、イノシシ(10)、シカ(13)、不明(45)
- ・16号住居跡…甲殻類 アシハラガニ(11)  
魚類 アオザメ(1)、コイ(3)、クロダイ(4)、タイ(2)  
カツオ(1)、コチ(1)、不明(28)  
鳥類 不明(4)  
哺乳類 ノウサギ(1)、タヌキ(1)、イノシシ(2)、シカ(1)  
不明(7)

【周辺環境】

富士見江川の流れる低地部の山崎公園付近をボーリング調査しました。その結果、水子貝塚と同じ頃の地層から海水や汽水に生息する珪藻(植物プランクトン)が見つかりました。この付近まで海が広がっていたことが明らかとなりました。

花粉も分析したところ、コナラの仲間が最も多く、クリ属も目立ちます。台地上に落葉広葉樹が広がっていたことがわかります。

【土器圧痕】

土器表面の小さな穴をシリコンで型を取り電子顕微鏡で観察し、現生標本と比較して圧痕の正体を同定する「圧痕レプリカ法」により、水子貝塚の土器からシソ属のエゴマ、ニワトコ属のニワトコ、マメ科ササゲ属のヤブツルアズキ、マメ科ダイズ属のツルマメの圧痕が多数確認されています。



図60 エゴマの圧痕のある土器

### これまでの調査成果のまとめ

- 76カ所の貝塚（小貝塚・地点貝塚ともいう）が直径160mの範囲に環状に分布している。
- 76カ所の貝塚の内、6カ所の貝塚が調査されており、すべて竪穴住居跡内に残されたものである。
- 6カ所の貝塚は、一緒に出土している土器から約6,000年前の縄文時代前期中頃に形成されたものである。それより古い時期の前期前半の住居跡は確認されておらず、新しい時期の前期後半の住居跡には貝塚が伴っていないことから、未調査の貝塚の時期も前期中頃のものとして推定される。
- 貝塚の貝殻は、汽水域に生息するヤマトシジミが90%を占め、次いで泥底の干潟に生息するマガキ、砂底の干潟に生息するハマグリが認められる。
- 15号住居跡の貝塚は数年、16号住居跡の貝塚は10年以上かけて堆積したものである。
- 15号住居跡の貝塚の下から、埋葬された壮年女性と犬の骨が出土した。縄文時代前期では稀な例である。人骨の科学分析により、水産物よりも陸産物を多く摂取していたことが明らかとなった。
- 貝塚からは、土器や石器のほかに、イノシシ、シカなどの哺乳類、コイ、クロダイ、コチなどの魚類、オニグルミ、クリ、クヌギの炭化種実が出土しており、縄文人が実際に食べていた食料を知ることができる。
- 縄文土器からエゴマ、ニワトコ、ヤブツルアズキ、ツルマメの圧痕が多数確認された。
- 低地のボーリング調査により水子貝塚の位置する台地直下まで古入間湾が到達していたことが明らかとなった。

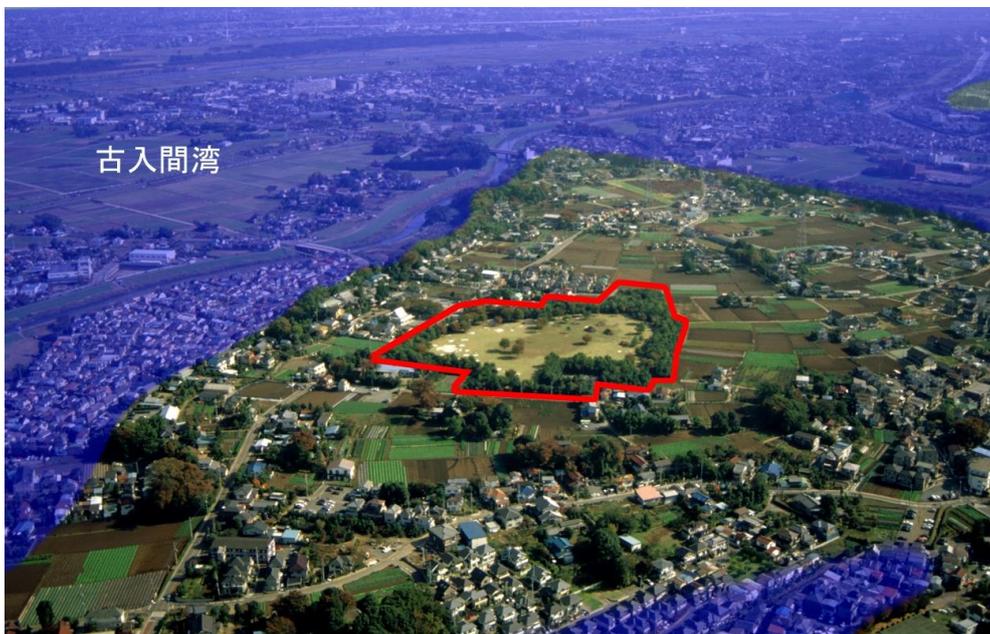


図61 水子貝塚と古入間湾（汽水域）

## 第3節 史跡の指定と公有地化

### 1 史跡の指定

昭和42年(1967)の発掘調査終了後、富士見町では水子貝塚の学術的価値を認識し、保存措置の手続きを進め、昭和42年(1967)5月に国史跡申請書を提出しました。

この時期は、平城宮跡の保存が決定し、加曾利貝塚の保存運動等が続いており、全国的に遺跡保存運動が活発でした。水子貝塚についても発掘関係者や文化財保護対策協議会、埼玉考古学会をはじめ多くの団体から保存要望が出されたようです。国史跡申請手続きが進む一方で、土地所有者への説明が充分に行われなかったことから指定への反対運動が起きました。

こうした中で、水子貝塚は昭和44年(1969)9月9日に国史跡に指定されました(昭和44年9月9日付文部省告示第317号)。また、昭和52年(1977)には文化庁より富士見市が文化財保護法第71条の2第1項の規定による管理団体に指定されました(昭和52年11月18日付庁保記第9の61号)。

#### 【指定理由】

水子貝塚は、浦和市街地の西方約8.5km、荒川低地に面した武蔵野台地上にある縄文時代前期の貝塚である。貝塚は、直径約160mの環状に並んだ約50の小貝塚群からなり、小貝塚の多くは、直径4ないし8m程度で、主としてヤマトシジミなどの淡水産の貝殻で構成されている。昭和13年以来数回の発掘調査により乳棒状磨製石斧・打製石斧・石皿等の石器や、黒浜式土器などの縄文時代前期中頃の遺物がおもに出土している。

また、調査されたどの小貝塚の貝層下においても、長方形の平面をもつ竪穴住居跡が発見されていることから、本貝塚は、主として廃棄された竪穴住居の凹地に形成された貝塚と考えられる。

縄文時代前期の多くの小貝塚からなる大規模な貝塚群のひとつであるとともに、小貝塚の分布から貝塚形成当時の集落の規模形態を推測しうる遺跡として学術上価値が高く、また遺跡の遺存状況も良好である。

このため、遺跡の全域(約3.3ha)を指定するものである。

#### 【指定名称】

水子貝塚

#### 【所在地】

埼玉県入間郡富士見町大字水子字寺前

#### 【指定地番】

2003番、2006番の1、2007番、2008番、2009番、2010番、2011番の1、2012番の1、2013番の1、2013番の1、2014番の1、2015番、2016番、2017番、2018番の1、2019番の1、2020番、2021番、2029番、2030番、2031番、2032番、2033番、2034番、2035番、2036番、2037番、2038番、2039番、2040番、2041番、2042番、2043番、2044番、2045番の1、2045番の2、2046番、2047番、2051番、2052番、2053番、2055番、2056番、2057番、2058番、2059番、2060番、2061番、2062番、2063番、2064番、2065番、2066番、2067番、2068番、2069番、2070番、地域に介在する道路敷を含む(地番は指定当時、公有地化時に分筆あり)



## 2 史跡の公有地化

史跡指定後も国・県・町に対して土地所有者の史跡指定反対の陳情が行われましたが、昭和 45 年（1970）9 月には保存への協力が得られることとなり、地権者による水子貝塚保存会が結成されました。史跡指定地の地目は畑で、一部共同墓地が含まれています。

昭和 45 年から国庫・県費の補助金の交付を受けて史跡指定地の公有化に着手し、平成 4 年度に史跡指定地内の公有地計画地のすべての取得を完了しました。ただし、墓地については移転が難しいとの判断から取得対象から除外しています。

### 【公有地化にかかる経費】

土地取得年度	昭和 45 年度から平成 4 年度まで
土地取得費	総事業費 3,685,270,000 円
	内訳 直接買上 701,670,000 円
	先行取得 2,983,600,000 円
	(元利償還額 3,086,830,000 円)
指定地実測面積	39,346.85 m <sup>2</sup>
取得面積	38,727.80 m <sup>2</sup>
未取得面積	619.05 m <sup>2</sup> (墓地部分)

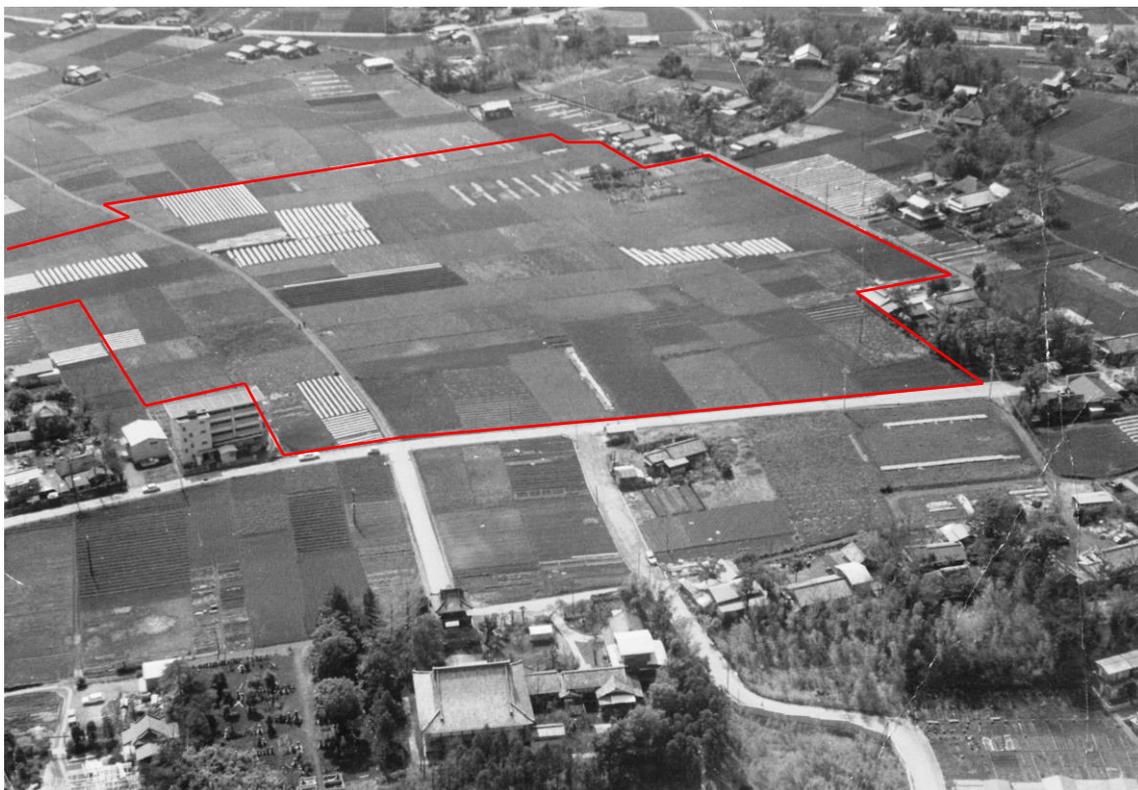


図 64 史跡指定時の航空写真

## 第4節 史跡の整備計画

### 1 保存管理計画の策定

昭和54年(1979)3月に史跡整備の基本方針となる「水子貝塚保存管理計画」を策定しました。遺跡を永久に保護・保存すること、史跡公園として市民の学習・憩いの場とすること、水子貝塚の特徴を明確に打ち出すこと、市全体の公園計画等を踏まえ土地利用及び周辺の開発と遺跡の保存を考慮すること、遺跡の範囲及び保存状態を正確に把握することを基本理念としています。その上で、貝層は露出せずに地中に現状保存すること、盛土した上で地点貝塚を白色の小石柱で表示すること、縄文時代の植生を復元すること、野外施設として復元住居を数棟建築すること、博物館を設置することなど具体的な環境整備計画案を作成しました。

### 2 保存整備基本計画の策定

昭和59年(1984)には「史跡水子貝塚保存整備基本計画」を策定し、調査計画、保存整備計画、博物館計画、管理運営計画等を示しました。

水子貝塚は、ほとんど発掘調査されておらず情報が限られているとの理由から、長期的な調査と保存整備が必要であると、以下のような具体案が提示されました。

#### ・遺跡周辺地区

外部世界の浸透を遮断し、独自の空間を形成するために高さのある樹木の植栽が必要である。史跡の主入口付近には、野外展示広場を設置し、水子貝塚や他の関連遺跡との関係などを模型・説明板などわかりやすく展示する。また、ここを起点として遊歩道を巡らし所々にベンチや展示コーナーを設置する。

#### ・遺跡中央地区

遺跡の中央部、主に地点貝塚の分布地域にあたり長期間調査の対象下に置かれることから、調査そのものを展示として市民に公開し、市民参加を促して「生きた野外博物館」として進める。

・調査結果を慎重に検討し、精密な保存方法を考慮した上で、竪穴住居の復元、最低1カ月程度の貝層の断面展示を行う。

・当面、確認されている地点貝塚上に低く盛土を施し、盛土上に新たな貝を固定散布して分布を表示し、水子貝塚の特性を示す。



図65 保存管理計画時の整備計画図

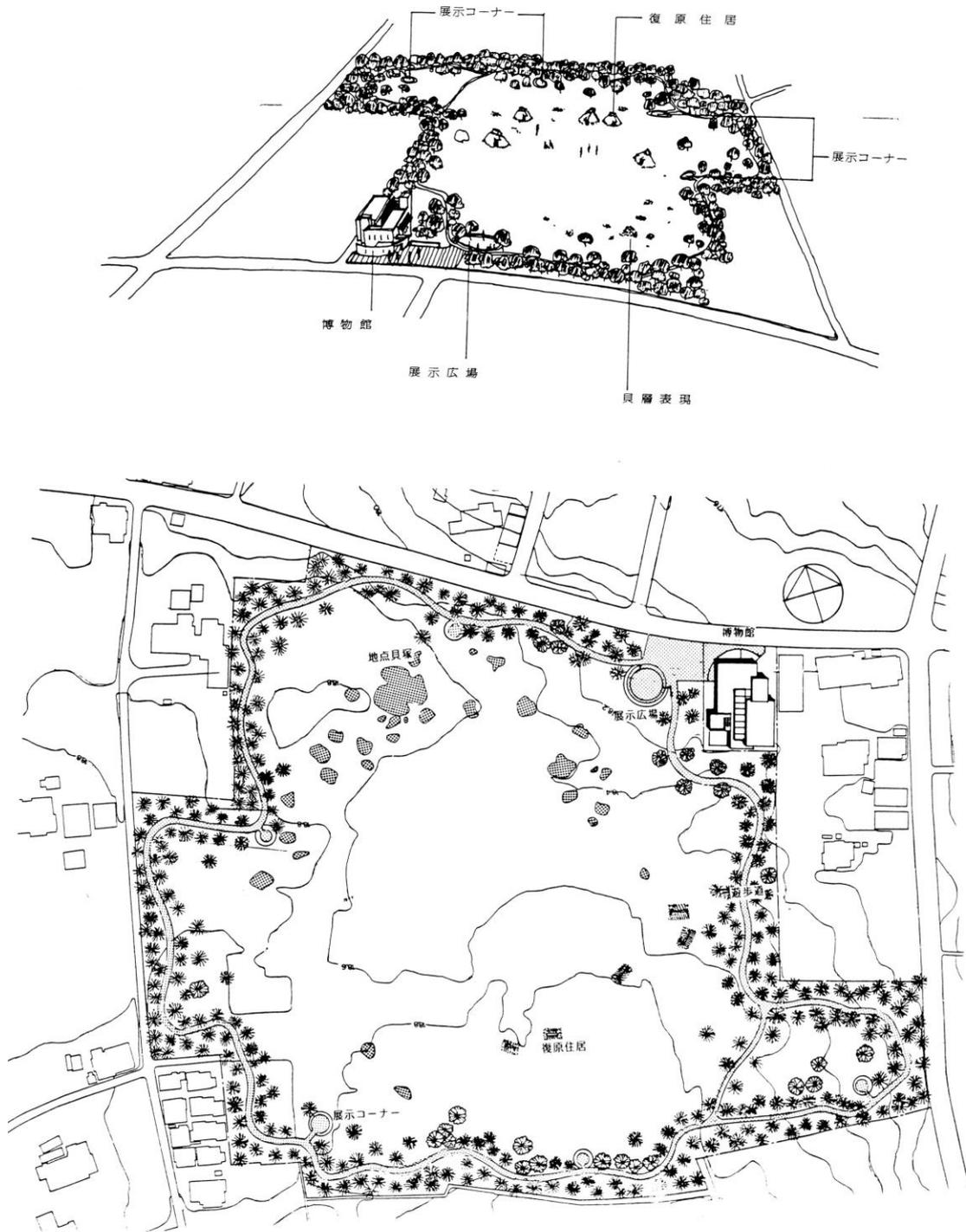


図 66 保存整備基本計画時の平面計画図及び鳥瞰図

### 3 史跡整備

#### ①史跡整備の経過

平成2年(1990)には、史跡指定地の公有化計画予定地の買収の見込みがたち、富士見市実施計画では平成4年(1992)からの3カ年計画で「水子貝塚環境整備事業」が認定されました。それを受け、学識経験者からなる「水子貝塚専門調査研究委員会」を設置し、環境整備事業の具体的検討に着手しました。

平成3年(1991)に文化庁の史跡等活用特別事業に採択されたことにより、計画を1年早め整備事業に着手しました。平成3年は整備基本設計・実施設計、ガイダンス施設的设计、盛土工事、ガイダンス施設建築工事、平成4年はガイダンス施設設備工事、土留め・フェンス・貝塚表示躯体工事、平成5年は植生復元工事、復元住居建築工事、展示工事、園路舗装工事などを実施しました。

平成6年(1994)6月に市民公募により決定した「縄文ふれあい広場」の愛称を冠して「水子貝塚公園」として開園しました。

平成10年(1998)には市内上南畑にあった考古館を史跡隣接地に移転(平成12年に水子貝塚資料館に改称)し、史跡と資料館が一体となった野外博物館的施設となりました。また、平成12年には市内下南畑の埼玉県指定旧跡難波田氏館跡を整備した難波田城公園・難波田城資料館がオープンしました。近隣では例のない史跡と資料館が一体となった二つの施設が存在しています。

#### ②整備基本設計時の整備方針

基本設計には、以下のような整備方針が示されています。

##### 【公開・展示方針】

水子貝塚の特色を踏まえ、貝塚が形成された黒浜式期を対象に、大規模な環状集落である遺跡の形態及びスケールを示していくことを主目的とする。また、縄文海進と遺跡の関係、貝塚の形成等、遺跡の歴史的 content や意義を一般に楽しく分かりやすくガイダンス施設内で展示し、遺跡の理解を助ける。

##### イ 環状に地点貝塚が分布する集落の形態とスケールを示す

160mにわたり環状に貝塚が分布する様子を表すため、現在発見されている貝塚すべての標示を行う。貝塚標示とともに、縄文時代前期の集落形態を表すため、竪穴住居の復元を行う。住居の配置及び棟数は、現在までの限られた発掘範囲内での復元考察が困難なため、当面、平成3年度発掘住居跡2棟を中心とした地域に4～5棟の復元を計画するが、今後さらに学術的検討を進める。また、掘り込みのみを復元した竪穴住居跡を2基程度設け、建築復元などの体験学習に活用する。

##### ロ 縄文海進と水子貝塚の関係を示す

縄文海進時の水子貝塚周辺の地形や海岸線を示すため、武蔵野台地及び大宮台地の範囲を含めた大型地形模型をガイダンス施設内に設置する。また、当時の環境やそこにおける人々の生活、武蔵野・大宮台地の遺跡の変遷と水子貝塚の位置づけなどを、映像ソフト、イラストパネル等により展示する。

##### ハ 貝層の形成や出土状態を示す

貝層の出土状態や、それが廃棄された竪穴住居内に形成されたことを示すため、床面まで掘り上げた住居跡と、貝層の面とどめた住居跡を型取りした遺構のレブ

リカをガイダンス施設内に展示する。この他、映像ソフトやパネル、遺物展示等により、形成の過程や廃棄された貝の種類、そこから推定できる人々の暮らし等を、口と関連させながら展示する。また、遺跡において、貝が地表に露出しているままの状態を見せる箇所を何カ所が設定することを検討する。

## ニ 水子貝塚に住んだ人々の生活の様子を示す

水子貝塚に住み暮らした人々の生活の様子を示すため、壮年女性及び犬の骨が発見された 15 号住居跡の内部に、レプリカ及び人形を配置し、一家の生活の様子を再現する。また、ガイダンス施設において、縄文時代の生活の様子を、映像ソフトを中心に説明を行う。

### 【総合配置方針】

イ 遺構が分布する範囲は、遺跡のスケール及び形態をできるかぎり自然な状態で示すことを第一義とし、遺構以外の施設は設置しない方針とする。遺構分布範囲を囲むように園路を設け、利便施設等は主にこの園路外側に設置する。

ロ 将来ガイダンス施設と一体となった利用・活用が検討されている「(仮称) 富士見市立考古資料館」の計画を踏まえ、ガイダンス施設は資料館予定地に隣接した指定地北東隅に設置する。ガイダンス施設内には便所を併設する。

ハ 土器作り、縄文料理の試食会などの体験学習が行えるゾーンをガイダンス施設周辺に設ける。

ニ 園路周辺と指定地周囲を中心に、高・中木を配栽し、緑陰及びバッファとする。

ホ 遺跡の全容が見渡せる展望台を南側植栽帯内に設ける。

ヘ 主出入口は、アプローチ道路に面した指定地北側に設けることとする。

ト 団体見学者の来訪に対応できるよう、史跡内にも便所を1カ所設けるものとする。給排水の引き込みが容易なよう、指定地北側道路に面した場所とする。

### ③整備基本計画からの主な変更点

- ・ガイダンス施設、展望台、トイレ、物品庫を設置
- ・貝塚標示を貝殻から陶片に素材変更
- ・出入口を北側に加え、西側と南側にも追加
- ・体験学習用として竪穴住居跡2棟、学習広場を設置



図 67 整備基本設計時の鳥瞰図

## 第5節 史跡の整備と活用

### 1 施設の概要

水子貝塚公園は、史跡の保存と活用を目的に平成3年度から3カ年計画で整備を実施し、平成6年（1994）6月に開園しました。敷地面積は約4haで、縄文の村をイメージした園内は5棟の「復元住居」、丸い白タイルを敷き詰めた「貝塚表示」、当時の植生を再現した「縄文の森」、「水子貝塚展示館」などから構成されています。

5棟の復元住居のうち、15号復元住居には縄文人の人形を置くなどして当時の住居内の生活の様子や家族を再現しています。

公園外周の縄文の森には、ケヤキ、クヌギ、コナラなど56種、約11,000本を植栽しており、森の中で営まれた縄文の村の雰囲気づくりに一役かっています。夏はカブトムシやクワガタムシを捕獲しに来る子どもや親子の姿が絶えず、秋に取れる木の実が「縄文クッキーづくり」の材料などに利用しています。また、伐採した枝は土器焼成の薪として利用し、落ち葉も畑の肥料として持ち帰る人が年々増えています。

ガイダンス施設である「水子貝塚展示館」は、大型モニターによる水子貝塚の解説映像、15号住居跡と16号住居跡の実物大模型をはじめ、貝塚の剥ぎ取り断面や出土した土器などの資料を展示しています。特に、住居内に埋葬された人骨や犬の骨、犬歯・サメ歯のペンダントなどは全国的にも珍しく、水子貝塚ならではの出土品といえます。土・日・祝日には、市民ボランティアの「市民学芸員」による展示解説も行っています。

史跡隣接地の水子貝塚資料館は、市内の遺跡から出土した旧石器時代から平安時代までの考古資料約500点を常設展示しています。教育普及事業も積極的に行っており、「まが玉づくり」や「土器づくり教室」など、様々な催し物を定期的に行っています。また、水子貝塚公園の活用と地域活性化の一環として、毎年9月の第一土曜日には野外映画会「星空シアター」を地元の方々との協働により開催しています。地域のイベントとして定着し毎回3,000人以上の人出があります。

### 2 整備の内容

#### ①整備方針

水子貝塚の特色をふまえ、貝塚が形成された縄文前期黒浜式期を対象に、大規模や環状集落である遺跡の形態及びスケールを示していくことを主目的としています。

また、縄文海進と遺跡の関係、貝塚の形成等、遺跡の歴史的 content や意義を一般に楽しく分かりやすくガイダンス施設で展示し、遺跡の理解を助けるようにしています。

#### ②所在地

埼玉県富士見市大字水子2003番地1

#### ③敷地面積

38,727.80 m<sup>2</sup>（史跡指定地面積 39,346.85 m<sup>2</sup>）

#### ④整備内容

##### 【保存盛土】

遺構保護のために、遺構面から100cmを基準とし、史跡指定地全域に現況面から平均50cm程度の盛土をしました。

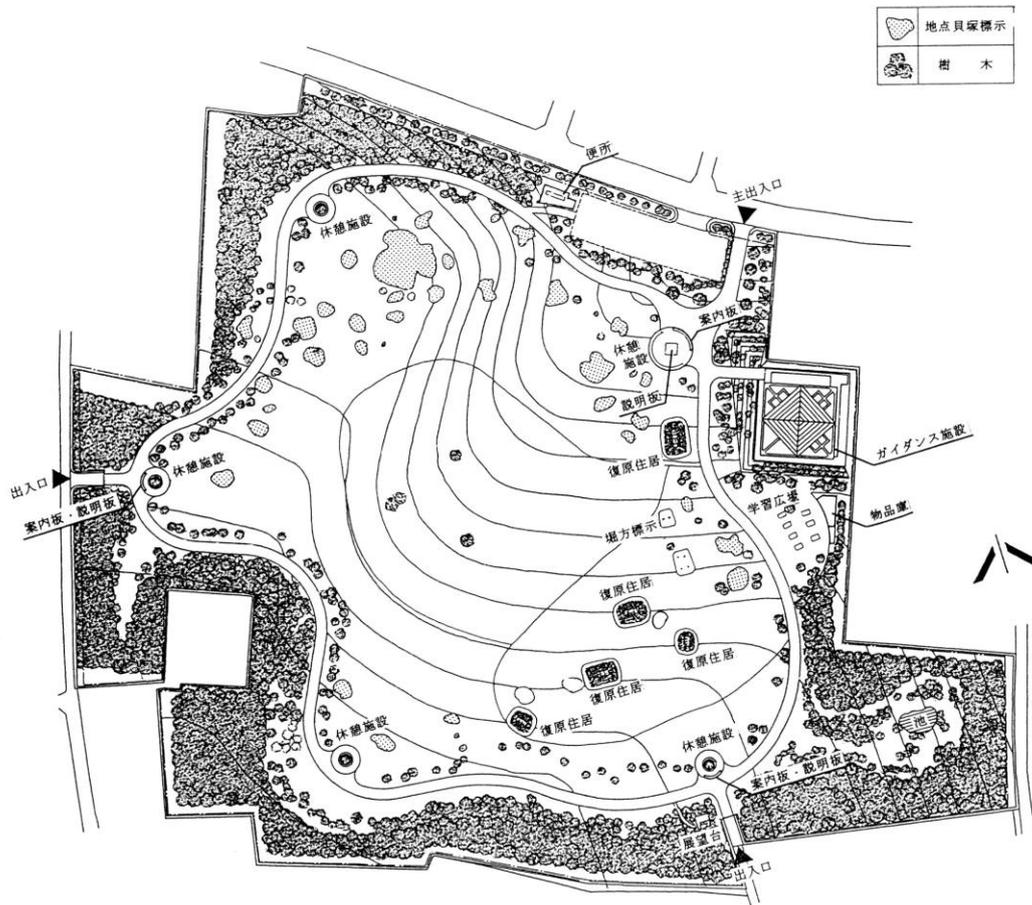


図 68 史跡整備配置図



図 69 史跡整備完了時の航空写真

## 【復元住居等の展示物】

復元住居等の展示物については史跡等活用特別事業の指針は「これまでの平面的整備に対して、立体的整備を行うことで、史跡等の歴史的空間を視覚的に把握できるようにしようとしたものである。平面表示と説明文で理解しようとするより、視覚による実物大復元の映像の方が、見学者にとって説明を抜きにした理解を得やすいことはいうまでもない」としています。水子貝塚の歴史的空間の復元にあたっては、当該指針をふまえ復元住居、竪穴住居跡、貝塚の所在表示、縄文時代の植生復元を行って、縄文時代の集落景観の復元、集落の形態及び貝塚の規模を表現しました。

### ・復元住居

発掘された住居跡のうち、貝塚形成期の黒浜式期に属し保存状態が良好なものを5軒選び復元しました。住居周囲は竪穴掘削時の残土処理と雨水侵入防止を兼ねて周堤を築き、屋根は寄棟造りの茅葺きで、煙出しは設置していません。

1号 長軸 5.1m 短軸 4.2m 深さ 30 cm 4本主柱 原位置復元 内部非公開

2号 長軸 7.7m 短軸 4.4m 深さ 70 cm 6本主柱 原位置復元 内部公開

6号 長軸 5.3m 短軸 4.5m 深さ 70 cm 4本主柱 原位置復元 内部非公開

15号 長軸 7.2m 短軸 5.7m 深さ 70 cm 4本主柱 原位置復元 内部展示

17号 長軸 7.7m 短軸 4.4m 深さ 50 cm 6本主柱 任意位置復元 内部非公開

### ・竪穴住居跡

6号と16号をモデルとし復元しました。居住中の竪穴住居、廃棄された竪穴住居跡、埋まりつつあり貝殻が遺棄された竪穴住居跡の三者が一体となって集落景観を構成するという想定に基づくもので、自然に埋没する過程も再現することも意図しています。

竪穴住居復元体験学習にも利用する計画でした。

### ・貝塚表示

貝塚の分布範囲をモルタル躯体に磁器の焼成時に器台とする「ハマ」を表面に貼付けて表示したものを42箇所、貝殻を散布したものを2箇所設置しました。

### ・植生復元

史跡公園としての修景植栽及び集落景観の構成要素としての縄文の森の植生復元という二つの目標を立て、配置計画を立てました。

園路周辺及び外周に植栽する中・高木は、富士見市の現況植生と縄文時代の復元植生を参考にした樹種構成を基本としています。園路内側に配する樹木は、遺構の保護を考慮し、できる限り浅根性のものとし、中央の地被類は自然な景観となるように野草を基本としながら多様な利用が可能となるように一部芝生も取り入れました。また、利用・活用にも有用で、且つ野鳥・昆虫を集められる樹種の植栽を行いました。

縄文時代の植生復元にあたっては、遺跡内で検出された植物遺存体資料や水子貝塚周辺の低地のボーリング調査で採集した資料、関連遺跡のデータを参考としました。

以上の想定に基づき植栽した樹木は、56種、11,029本です。

高木 コナラ (341)、クヌギ (268)、ケヤキ (65)、シラカシ (147)、アラカシ (142)、スダジイ (67)、クスノキ (4)、ソヨゴ (47)、サルスベリ (5)、ムクノキ (29)、アカシデ (124) ブナ (16)、ハウノキ (5)、ヤマザクラ (38)、リョウブ (102)、ネムノキ (3)、マテバシイ (90)、ス

ダジイ (67)、エゴノキ (15)、エノキ (24)、トチノキ (9)、クリ (63)、オニグルミ (10) など約1,700本

中木 ヤブツバキ (372)、オトコヨウゾメ (30)、ガマズミ (32)、マユミ (16)、ムラサキシキブ (73)、ヤダケ (380)、アオキ (528) など約1,500本

低木 ウツギ (1,963)、クマザサ (1,822)、オカメザサ (2,640)、ヒサカキ (508)、サザンカ (316) など約7,800本

#### 【学習関連施設】

- ・説明広場 1カ所
- ・野外学習広場 テーブル7台
- ・展示館 (鉄筋コンクリート造 平屋建て 建築面積約450㎡)

#### 【その他の施設】

- ・便所 1棟
- ・物品庫 1棟
- ・展望台 1棟
- ・サークルベンチ 4箇所



図70 水子貝塚展示館 (ガイダンス施設)



図71 復元住居



図72 竪穴住居跡



図73 サークルベンチ



図74 展望台



図75 正門 (北門)

#### ⑤公園整備事業費

公園整備費総額 765,857,000円

(うち国補助金151,500,000円 県補助金50,499,000円)

- ・委託料 (設計、工事監理、展示製作など) 132,195,000円
- ・工事請負費 593,423,000円
- ・事務費 40,239,000円

### 3 史跡の管理

史跡の管理・運営は富士見市の直営で、史跡隣接地に建てられている富士見市立水子貝塚資料館で行っています。

水子貝塚資料館は、市内上南畑にあった考古館を平成 10 年（1998）に移転したものです。また、平成 14 年（2002）には史跡南側の土地を取得（一部財務省から無償貸借）し、駐車場を設置しました。

平成 12 年（2000）から市民との協働による施設運営と生涯学習の推進を目的とした市民学芸員制度を導入しました。「市民学芸員養成講座」を修了した受講生の中で希望者を登録し、休日の園内ガイドや主催イベントの補助などの活動を行っています。

#### 【休園日】

無し

#### 【開園時間】

4月～9月 9:00～18:00

10月～3月 9:00～17:00

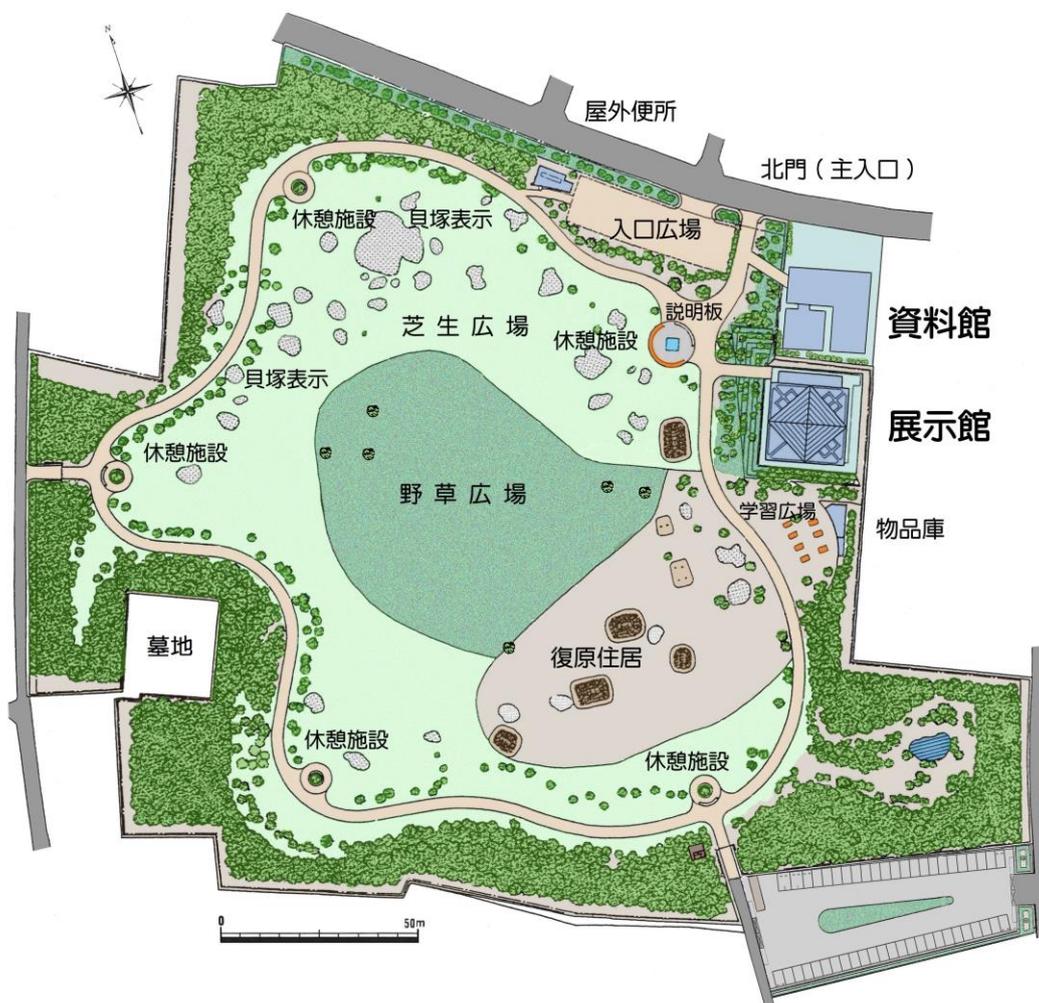


図 76 史跡水子貝塚公園平面図

### 3 史跡の活用

公園の来園者数の統計はとっていませんが、資料館の入館者は年間約 48,000 人です。公園利用の傾向としては、歴史学習や憩いの場としてはもちろん、ウォーキングなどの軽スポーツや遊び場としても利用されています。

学校教育との連携では、小学校6年生の社会科の歴史学習の場として定着しています。市内外の小学校から見学依頼があり、展示館での水子貝塚の解説映像の鑑賞、資料館での実物の土器や石器を手にとっての観察、復元住居内の見学、火起こしの体験をクラス単位にローテーションで行っています。また、全校遠足での利用もあります。

公園施設を活用した事業としては、「水子貝塚星空シアター」や「縄文土器づくり教室」、展示館を利用したコンサートなどを実施しており、毎年多くの参加者があります。



図 77 小学校社会科見学（復元住居）



図 78 小学校社会科見学（火起こし体験）



図 79 縄文土器づくり教室（土器の焼成）



図 80 学習広場での「まが玉づくり」



図 81 水子貝塚星空シアター

## 第6節 管理と活用の経過

### 1 管理の経過

平成6年から令和3年までの施設の管理に関わる主な経過は、以下のとおりです。

実施年度	内 容	理 由
平成6年度	開園 考古館職員が隣接地の仮設管理事務所に常駐し管理を開始	
平成8年度	学習広場の木製イス修繕 擬木コンクリート製に交換	腐食のため
	復元住居の燻蒸を専門業者に委託	防腐防虫のため（現在まで継続中）
平成9年度	資料館の管理棟竣工	
	竪穴住居跡の小屋組み修繕	腐食のため
平成10年度	資料館の展示棟竣工 考古館を移転	
平成12年度	考古館を水子貝塚資料館に改称	
平成13年度	サークルベンチの木製座板修繕	腐食のため
平成14年度	南駐車場の竣工・供用開始	
平成15年度	15号復元住居の屋根差し茅修繕	劣化のため
平成16年度	2号復元住居の屋根差し茅修繕	劣化のため
	樹木の剪定開始	現在まで継続
平成17年度	6号復元住居の屋根差し茅修繕	劣化のため
	学習広場のテーブル修繕（2台） 擬木コンクリート製に交換	腐食のため
平成18年度	1号復元住居の屋根差し茅修繕	劣化のため
平成19年度	17号復元住居の屋根差し茅修繕	劣化のため
平成20年度	展示館屋上の防水工事	
	竪穴住居跡の小屋組み修繕	腐食のため
平成21年度	園路の舗装修繕 透水性着色コンクリート舗装に変更	当初の土系舗装の表層が剥がれ路盤が露出したため
平成23年度	トイレ・物品庫の屋上防水・外壁塗装工事	
平成24年度	学習広場のテーブル修繕（5台） 擬木コンクリート製に交換	腐食のため
	展望台の修繕 根太、床板、階段手すりの部材交換	腐食のため
	サークルベンチの木製座板修繕 人工木材に変更	腐食のため
平成25年度	15号復元住居の修理工事	茅屋根の腐食、竪穴壁の崩落のため
平成26年度	2号復元住居の修理工事	茅屋根の腐食、竪穴壁の崩落のため
平成27年度	6号復元住居の修理工事	茅屋根の腐食、竪穴壁の崩落のため
平成28年度	1号復元住居の修理工事	茅屋根の腐食、竪穴壁の崩落のため
平成29年度	17号復元住居の修理工事	茅屋根の腐食、竪穴壁の崩落のため
令和3年度	園路灯の修繕（LED化）	劣化、損傷のため

## 2 活用の経過

平成6年から令和3年までの水子貝塚公園を活用した事業は、以下のとおりです。

実施年度	内 容	備 考
平成6年度	水子貝塚公園オープン記念 水子貝塚まつり 土器づくり教室	9月 9月～12月
平成7年度	夏休み親子考古学教室 土器づくり教室	8月 9月～12月
平成8年度	水子貝塚星空シアター 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会	8月 9月～12月 12月～1月
平成9年度	水子貝塚星空シアター 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会	8月 10月～12月 9月～11月 12月～1月
平成10年度	水子貝塚星空シアター 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会	8月 10月 5月～11月 1月～3月 12月～1月
平成11年度	水子貝塚星空シアター 子ども土器づくり教室 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会	7月 7月 8月 5月～11月 9月～11月 12月～1月
平成12年度	水子貝塚星空シアター 子ども土器づくり教室 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 石器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会 さわやか森コンサート	9月 7月 8月 5月～11月 9月～10月 11月 12月～1月 1月
平成13年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会 縄文の森コンサート	9月 8月～9月 10月 5月～10月 10月～12月 12月～1月 7月
平成14年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 10月 5月～10月 2月～3月 12月～1月 3月

平成15年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 自然観察会 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会 縄文の森コンサート 茅葺き屋根講習会・差し茅体験	9月 7月～8月 11月 4月～10月 10月～12月 12月～1月 2月 10月
平成16年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 たこづくり講習会・たこあげ大会 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 1月～3月 12月～1月 2月
平成17年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 2月
平成18年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 2月
平成19年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 2月
平成20年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 2月
平成21年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 11月
平成22年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 11月
平成23年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月～8月 通年 10月～12月 11月

平成24年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月 通年 9月～12月 12月
平成25年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月 通年 9月～12月 12月
平成26年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート 熱気球の係留フライトと野外コンサート	9月 7月 通年 9月～12月 2月 11月
平成27年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート 熱気球の係留フライト 6号復元住居修理見学会	9月 7月 通年 9月～12月 11月 11月 2月
平成28年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート 1号復元住居修理見学会	9月 7月 通年 10月～12月 11月 2月
平成29年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート 17号復元住居修理見学会	9月 7月 通年 10月～12月 10月 2月
平成30年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド 土器づくり教室 縄文の森コンサート	9月 7月 通年 9月～12月 11月
令和元年度	水子貝塚星空シアター 夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド	9月 7月 通年
令和2年度	夏休み縄文体験 土曜おもしろミュージアランド	7月 通年
令和3年度	土器づくり教室 土曜おもしろミュージアランド	1月～2月 通年